

令和7年度
教育関係共同利用拠点事業（農場）
報告書

中部高冷地域における農業・環境教育共同利用拠点
－高冷地域の園芸作物，畜産と環境を組み合わせた
フィールド教育－

令和8年3月

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター

はじめに

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター（以下、AFC とする）は、フィールド科学の実践の場として、生物生産技術、環境管理技術、および生態保全管理に関する教育研究を行い、野外活動に精通した学生の養成と農林生産や環境保全を通じた地域との交流、連携を積極的に進めることを目的に設置されました。AFC は構内、野辺山、西駒および手良沢山の 4 ステーションの施設を有しており、平成 29 年の組織見直しにより、農場、演習林および野辺山の 3 部会により管理・運営を行うこととなり、現在に至っています。

野辺山ステーション農場（以下、野辺山農場とする）は、我が国有数の高原野菜地帯である中部高冷地域、八ヶ岳山麓の標高 1,351m の野辺山高原に位置します。この地域は首都圏からも比較的短時間で訪れることができる大規模な高冷地・寒地型農業地帯でもあります。さらに、栽培圃場と周辺の生態系を一体として学習できる環境にあり、教育拠点として極めて貴重なフィールドです。野辺山農場は文部科学省の平成 25 年度「教育関係共同利用拠点」に認定され、さらに平成 30 年から 5 年間の再認定がされました。令和 5 年度からは申請施設に構内農場を加え、「中部高冷地域における農業・環境教育共同利用拠点 - 高冷地域の園芸作物、畜産と環境を組み合わせたフィールド教育 -」として充実化をはかり、さらに 5 年間再認定されました。

令和 5 年度に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に位置づけられたことに伴い、「新型コロナウイルスの感染拡大を防止する教育研究等の活動の指針」が廃止されたため、コロナ禍前と同じように利用を受け入れることとしました。また令和 5 年度から申請施設に構内農場を加えたことに伴い、高冷地域植物生産生態学演習、高冷地域動物生産生態学演習、高冷地域生物生産生態学演習において、演習の前半は野辺山農場で、後半は構内農場で実施するなど、演習プログラムの刷新による充実を図りました。その結果、公開実習以外の利用を含め、26 大学を始めとする計 36 の機関から延べ 2,321 名の学生、院生等にご利用いただきました。

利用学生は、食の生産現場を知り、食と環境に関する理解を深め、連作障害や地球温暖化等の問題の認識とその解決能力を高め、さらに自然や生命の尊さを感じ、豊かな人間性を育み、集団作業を通じて協調性等を養うことが期待できます。野辺山農場および構内農場は、中部高冷地域フィールドを生かし、持続的な循環型農業および社会を目指す共同利用拠点に展開することが可能で、今後、農学系のみならず非農学系にもわたる多様な大学の利用が増え、全国に広がる教育共同利用拠点に発展されることが期待されます。

令和 8 年 3 月

信州大学農学部附属アルプス圏
フィールド科学教育研究センター長
岡野 哲郎

1. 中部高冷地域における農業・環境教育共同利用拠点

(1) 農場の概要

AFC の概要 ～恵まれた自然環境を生かした実践的教育研究の場～

AFC は、附属農場、附属演習林および附属高冷地農業実験実習施設を統合して平成 14 年に農学部附属教育研究施設として新しく設立された。AFC はフィールド科学の実践の場として、フィールドにおける生物生産技術および環境管理技術に関する教育・研究並びに広く地域社会の発展に寄与するための社会教育事業を行っている。

組織

AFC は農場、演習林、野辺山の 3 部会を含む組織（教員 4 名、事務職員 3 名、技術職員 8 名、プロジェクト研究員（有期助手） 2 名と 4 施設（ステーション）を有している。

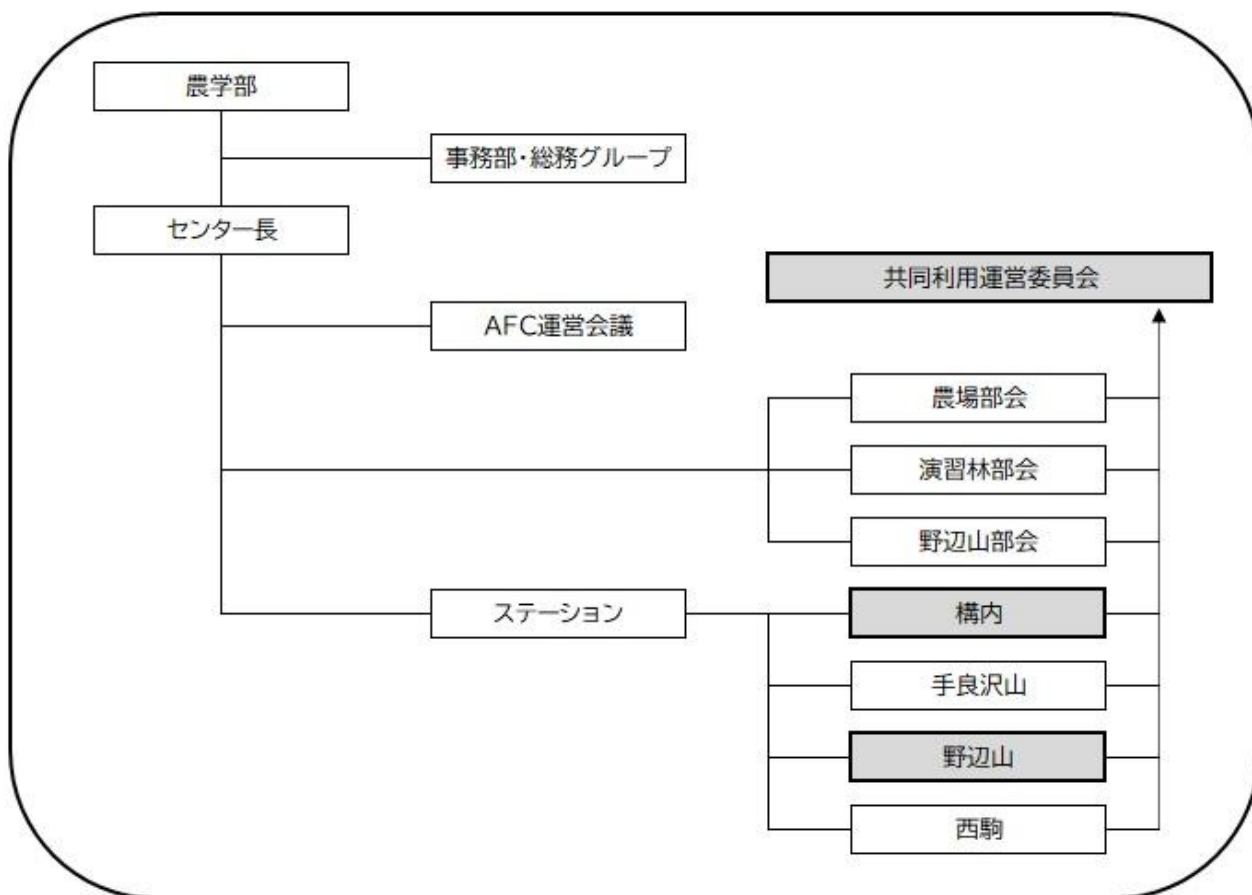


図1 アルプス圏フィールド科学教育研究センター組織体制および共同利用運営体制

野辺山農場の概要

野辺山農場は、中部高冷地域、八ヶ岳山麓の標高 1,351 m の野辺山高原に位置している。日本でも有数の高原野菜生産地帯であるこの地域は、首都圏から短時間で訪れることができる大規模な高冷地・寒地型農業地帯でもある。さらに周辺の地域も含め一つの生態系として学習できる環境にある教育拠点としては、我が国でただ一つである。こうした環境の中、野辺山農場では、高冷地野菜のキャベツなどの葉菜類の栽培、特産のベニバナインゲン等のマメ類やソバの栽培、繁殖和牛の飼養と飼料生産などを行い、学部および全学的な実習地や研究施設として利用されている。



野辺山ステーション

野辺山農場の施設・設備

●宿泊施設

- ・ 宿泊可能人数：最多 90 名（ただし男女比によって最大人数以下）
- ・ 宿泊部屋数：洋室 9 室（2 段ベッド）、和室 7 室、教員用和室 1 室
- ・ 洗濯室・乾燥室：男性用洗濯室・乾燥室、女性用洗濯室・乾燥室（男女計洗濯機 7 台、乾燥機 7 台：洗剤、ハンガー等利用可能）
- ・ シャワー室：男性用シャワー室、女性用シャワー室（各 4 ブース：アメニティ用品の備付なし）
- ・ トイレ：男性用共同トイレ（1, 2 階）、女性用共同トイレ（1, 2 階）
- ・ 厨房：宿泊者共用 自炊用品（ガスコンロ、炊飯器、冷凍冷蔵庫、電子レンジ、調理器具、食器類）
- ・ 食堂：宿泊者共用
講義室：2 室（講義室（1）40 名、講義室（2）30 名収容）
- ・ ネット環境：無線 LAN
- ・ 冷暖房設備：暖房のみ一部施設にて利用可
- 施設内設備
- ・ 農場農具室、中家畜舎（1 棟）、牛舎（2 棟）、収納舎、農具舎、植物遺伝資源等保存用種子庫（約 8 m²）、ビニールハウス（3 棟）

●主な栽培作物

- ・ ベニバナインゲン、トウモロコシ、ソバ、キャベツ、レッドキャベツ、レタス、セロリ、ジャガイモ、ブロッコリー、牧草

●飼育動物

- ・ 黒毛和種繁殖牛：成雌牛約 9 頭、子牛約 4 頭
 - ・ ヒツジ（サフォーク種・フライスランド種）：約 6 頭（研究実験時）

●主な機械・道具類

- ・ 大型トラクター：2 台、小型トラクター：1 台、自走式ブームスプレーヤ：1 台、ロールペーラー：1 台、ベールラッパー：1 台、ドリルシーダー：1 台、マルチャー：1 台、ホイローダー：2 台、テッダーレーキ：1 台、プラウ：1 台、サブソイラー：1 台、マニュアルプレッダー：1 台、ブロードキャスター：1 台、ディスクモア：1 台、コンバイン：1 台、穀実乾燥機：1 台、管理機：3 台、ハンマーナイフモア：2 台、ベールグラブ：1 台、スプリングカルチ：1 台、カルチパッカー：1 台、唐箕：2 台、刈払い機：3 台、ソイルミキサー：1 台

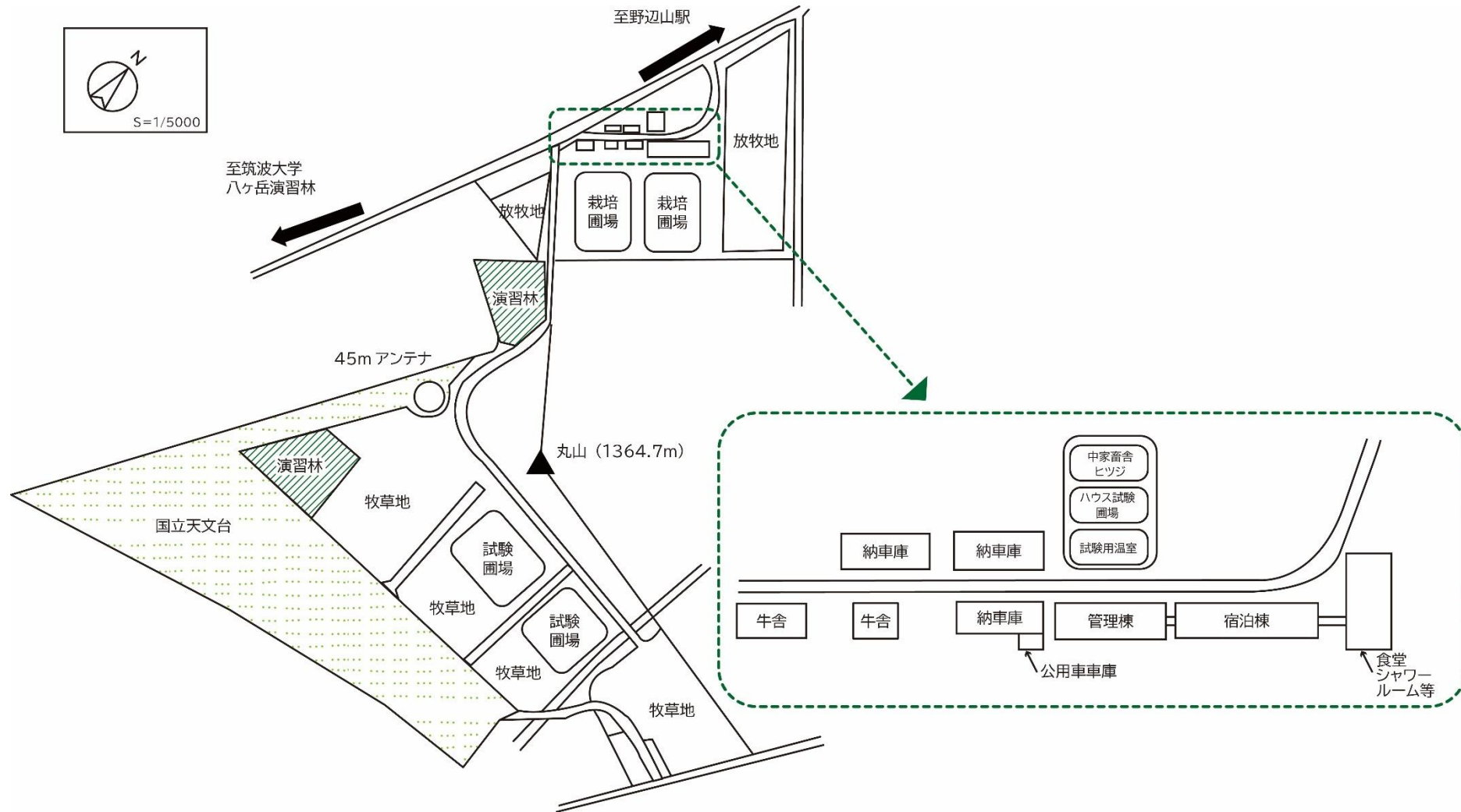


図2 AFC野辺山農場全体図

構内農場の概要

構内ステーション農場（以下、構内農場とする）は、準高冷地である長野県伊那谷北部の標高 720 m の南箕輪村に位置している。果樹、野菜および花卉など多くの園芸作物を圃場およびハウス等の施設で栽培し、さらに収穫した果実、野菜については一部加工もしており、園芸作物の栽培から利用、加工さらに直売所での販売まで、一貫した農産物の生産を行っている。さらに畜産では黒毛和種の繁殖経営とソルガム、ライムギおよび牧草など自給飼料作物生産による循環型畜産経営を実践している。また、中部高冷地域における当該地域は先進的な酪農経営が立地する地域でもある。

構内農場では、こうした環境を背景に、学部・大学院等の教育・研究施設、フィールドおよびその素材生産フィールドとして学内の多くの教員や学生に利用され、年間で 40 件程度の使用・利用申請がある。さらに学部の学生実習として植物生産一貫実習Ⅰ、植物生産一貫実習Ⅱ、植物生産一貫実習Ⅲ、動物生産システム実験実習を開講し、年間を通じて農場実習を実施している。

構内農場の施設・設備

●園芸作物栽培施設および圃場

葉菜類、果菜類、根菜類などの野菜とリンゴ、ナシ、ブドウ、プルーンなどの果樹類、シクラメンなどの花卉類など極めて多品目の園芸作物を生産している。また、付随施設としてガラス温室 1 棟、ビニールハウス 11 棟を備えている。園芸作物では手作業も多いが、圃場整備およびソバ、飼料作物など土地利用型作物はトラクター、プランター、マルチャー、コンバイン等を利用し、作業に必要な農具・資材は揃えている。また、植物遺伝資源等保存用の種子庫を備えている。

●飼料作物栽培圃場

牧草類の全作付面積は、放牧草地在 2 ha、ロールバールサイレーズ用の採草地 3 ha である。また、ライムギ、ソルガムなど飼料作物の作付面積は延 5 ha で、家畜の粗飼料は全て農場産で賄われている。圃場の管理は主にトラクターで行い、採草生産に必要なモア、ロールペーラー、ロールバールラッパー等一連の作業に必要な農業機械は整備されている。

●家畜、畜舎および農具舎

飼養する家畜は黒毛和種繁殖牛で、1 年 1 産を目標に成雌牛 16 頭の飼養管理を行っている。畜舎は繁殖牛舎と育成牛舎等 3 棟を備え、舎飼と放牧を併用出来る配置である。農機具類を保管するための大型車庫を備えている。黒毛和種繁殖牛以外にヤギ（日本ザーネン種）およびヒツジ（サフォーク種・フライスランド種）も飼養管理している。

●教育・実験施設

教室(80 名：40 名+30 名+10 名)、加工室が利用できる。ガラス温室 1 棟、ビニールハウス 10 棟が利用できる。実験室では、簡易な飼料成分分析等を行うことが出来るスペース、ジュース、ジャムの加工実習用資材を保有している。

●宿泊施設（食と緑の科学資料館「ゆりの木」宿泊施設

宿泊可能人数：最多 4 名（ただし男女比によって最大人数以下）

宿泊部屋数：洋室 2 室（1 部屋 2 名）シングルベッド 2 台、トイレ、ユニットバス等設備

2) 共同利用拠点事業の概要

事業目的

先端的な農業技術実習教育に向け、高冷地(準高冷地も含む)の野菜など園芸作物、作物および畜産を組み合わせた循環型農業に関する教育・研究および自然環境教育とその現場を教材として取り上げ、「食」や「環境」、「看護学」、「人文学」、「福祉学」など幅広い分野の他大学学生に施設を提供することで、各分野の理解を深めるとともに、自然の恵みや命の営みの尊さなど豊かな人間性構築を目的とする。

事業概要

野辺山農場は、中部高冷地域、八ヶ岳山麓の標高1,351 mの野辺山高原に位置し、日本でも有数の高原野菜地帯であり、首都圏から短時間で訪れることができる大規模な高冷地・寒地型農業地帯である。さらに周辺の生態系を一体として学習できる環境にある。このような環境の中、キャベツを中心とする高原野菜、マメ類、ソバ等の栽培、また、黒毛和種繁殖牛の飼養管理と牧草の採草および放牧利用を行い、持続的資源循環型農業を目指し、教育研究および地域貢献活動に取り組んでいる。

構内農場は、長野県伊那谷北部の標高720 mの南箕輪村に位置する準高冷地である。果樹、野菜および花卉など多くの園芸作物を圃場およびハウス等の施設で栽培し、園芸作物の栽培から利用、加工さらに直売所での販売まで、一貫した農産物の生産を行っている。さらに、畜産では黒毛和種の繁殖経営とソルガム、ライムギおよび牧草など自給飼料作物生産による循環型畜産経営を実践している。構内農場ではこうした環境を背景に、学部・大学院等の教育研究施設、フィールドおよびその素材生産フィールドとして学内の多くの教員や学生に利用されており、年間を通じて教育研究活動を行っている他、様々な地域貢献活動に取り組んでいる。

取り組み内容

野辺山農場および構内農場では、本学学生の演習等に活用しながら受入枠を拡大し、共同利用拠点として他大学農学系・非農学系学生(学部生と大学院生)を対象に、高冷地域の複合型農業を体験することを目的に、野菜、果樹、花卉および畜産部門が連携し、地域の農家見学も含めた多品目・総合的な実習を計画している。学生の興味・習熟レベル、プログラム内容に応じて選択できる以下の8つの演習(①~⑧)の提供が可能である。

(1)基礎力養成フィールド教育

①②共学型プログラム(高冷地域植物生産生態学演習、高冷地域動物生産生態学演習)

本学農学部学生を主対象に開講している「高冷地域植物生産生態学演習」、「高冷地域動物生産生態学演習」(各4日間開催)を他大学非農学系学生、農学系学生も「共学」する演習として開講する。

③既設型プログラム(高冷地域生物生産生態学演習)

他大学非農学系学生を主対象に、①②のプログラムを融合した「高冷地域生物生産生態学演習」を、環境、生態演習も取り入れた既設型プログラムに基づく演習として開講する。

(2)応用力養成フィールド教育

④既設型プログラム(高冷地域応用フィールド演習)

他大学農学系、非農学系学生を主対象に、安心安全な園芸作物の管理、収穫、流通および6次産業化生産技術を習得できる「高冷地域応用フィールド演習」を開講する。

⑤既設型プログラム(高冷地域先端農業特別演習)

他大学農学系大学院生を主対象に、スマート農業、ICT 農業技術を導入した高冷地の先端農業を習得する「高冷地域先端農業特別演習」を開講する。

⑥⑦注文型プログラム（注文型応用演習，高冷地域農家実践演習）

他大学に野辺山農場および構内農場における「栽培暦」（図3）および「演習プログラム」（表1，表2）等の情報を提供し，他大学の教員や学生からの相談に応じて「注文型のプログラム」を構築・開講し，指導する。

(3)オープンフィールド教育（注文型プログラム）

⑧他大学の教員と学生に，卒業論文等の作成に関わる試験研究圃場や研究課題の提供および野辺山農場，構内農場隣接地域における野外研究について，フィールドレベルで指導，援助する。

図3 AFC 野辺山農場の栽培暦

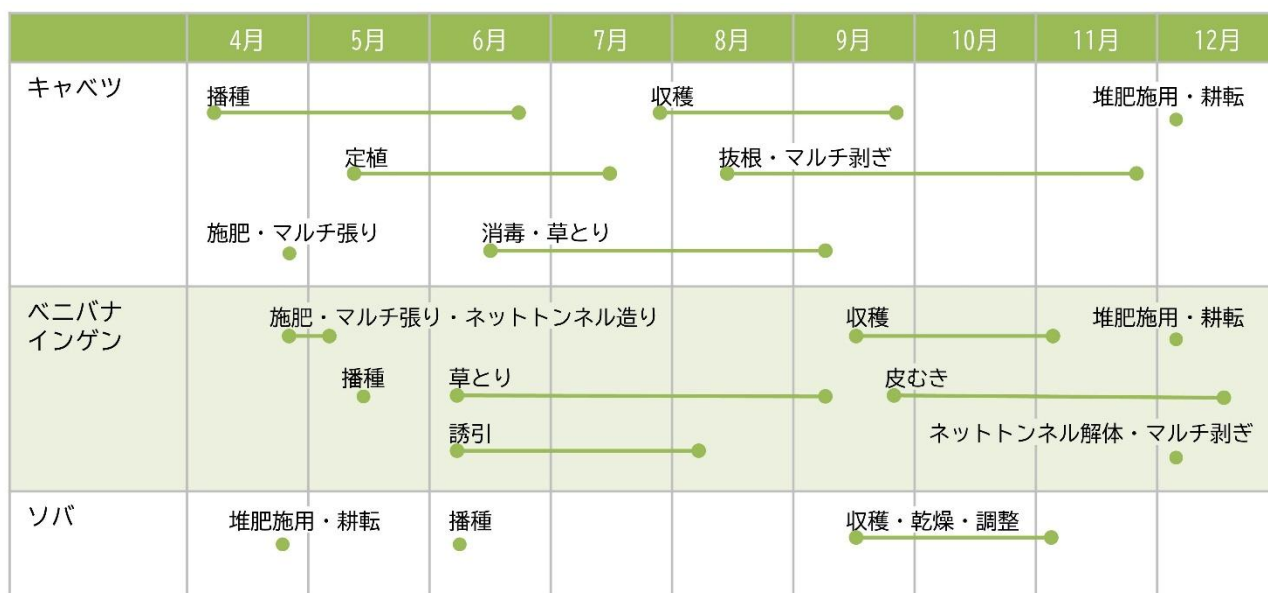


表1 野辺山農場で対応可能な15の演習プログラム

No.	プログラム	所要時間	実施可能時期	概要
1	高原野菜の管理	180分	春夏秋	キャベツ, スイートコーンなどの高原野菜の栽培管理
2	高原野菜の収穫	180分	夏秋	キャベツ, スイートコーンなどの高原野菜の収穫, 出荷
3	マメ, ソバ類の栽培, 管理	180分	春夏秋	ベニバナインゲンの定植, 収穫, 選別, ソバの調整
4	野辺山の野生生物の観察, 調査	180分	春夏秋	昆虫を中心とした野辺山の野生生物の観察, 調査
5	八ヶ岳の野生生物の観察, 調査	180分	春夏秋	八ヶ岳, および周辺の高原の野生生物の観察, 調査
6	高冷地(野辺山)農業の調査	180分	春夏秋	野辺山, 川上村の農業, 野菜農家の調査出荷場の見学
7	マメの加工, 利用	180分	秋冬	ベニバナインゲンの調整, 加工
8	肉用牛の飼養管理	180分	春夏秋冬	肉用牛の飼養管理, 放牧地の管理
9	乳用牛の飼養管理 ※他施設を利用する実習のため別途料金がかかる場合があります	180分	春夏秋冬	酪農家の見学, 子牛の管理, 子牛の哺乳体験
10	牛舎管理 ※他施設を利用する実習のため別途料金がかかる場合があります	180分	春夏秋冬	肉用牛舎管理, 乳用牛舎管理
11	牧草・飼料作物の栽培, 管理	180分	春夏秋	牧草・飼料作物の播種, 管理, 調整, 保存
12	畜産物の加工, 利用 ※他施設を利用する実習のため別途料金がかかる場合があります	180分	春夏秋冬	バター作り, 牛乳加工施設見学
13	ズッキーニの栽培管理	180分	春夏秋冬	ズッキーニ農家の見学, 栽培管理作業
14	ヒツジの飼養管理	180分	春夏秋冬	ヒツジの飼養管理
15	農家・牧場作業	180分	春夏秋冬	酪農家, 牧場における乳用牛の飼養管理

表2 構内農場で対応可能な10の演習プログラム

No.	プログラム	所要時間	実施可能時期	概要
1	野菜の管理, 収穫	180分	春夏秋	農場で生産している野菜の栽培管理, 収穫
2	果樹の管理, 収穫	180分	春夏秋冬	農場で生産している果樹の栽培管理, 収穫
3	花卉の管理	180分	春夏秋	農場で生産している花卉の栽培管理
4	水稲の管理	180分	春夏秋	水稲の栽培管理
5	肉用牛の飼養管理	180分	春夏秋冬	肉用牛の飼養管理, 放牧地の管理
6	牧草・飼料作物の栽培, 管理	180分	春夏秋冬	牧草・飼料作物の播種, 管理, 調製
7	野菜, 果樹の加工	180分	春夏秋冬	農場で収穫した果樹や野菜の加工 (ジャム, ジュース, 漬物※) ※漬物は冬のみ
8	畜産物の加工, 利用	180分	春夏秋冬	プレスハム・燻製※, チーズ ※プレスハム・燻製は要相談
9	農家・牧場の見学	180分	春夏秋冬	近隣の農家・牧場の見学
10	関連施設の見学	180分	春夏秋冬	近隣の農業・畜産・食品加工等, 関連施設の見学

実施体制

共同利用拠点としての教育の実施責任者は、信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター長とし、共同利用の運営は共同利用拠点運営委員会が担う。

実習等の共同利用拠点事業の取り組みは、2名の農場担当教員、1名の農場担当助手、6名の農場技術職員、3名の事務系職員、および学務担当事務系職員（2名）により実施する。

広報活動

共同利用の促進と利用者の利便性向上のため、ホームページから利用申請を行えるようにした。その他、Q&Aの掲載や施設利用予約状況の確認もできるようにAFCホームページの充実を図った。

公開実習募集はホームページへの情報掲載の他、利用が見込まれる大学へメールや郵便により案内を送付した。公開演習終了後は実習報告書をホームページに掲載した。

AFCのホームページ

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/institutes/afc/>

農学部トップ > 施設紹介 > 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)

AFC

附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター

アルプス圏フィールド科学教育研究センター（AFC）は、里地から山岳地まで多様な自然環境と生産環境の中に位置しており、フィールド科学の実践の場として、フィールドにおける生物生産技術および環境管理技術に関する教育・研究並びに広く地域社会の発展に寄与するための社会教育事業を行っています。

重要なお知らせ

- 2026年03月24日 ● 野辺山ステーション菜畑施設使用料改定のお知らせ
- 2026年03月24日 ● 『菜畑施設利用申請書』『菜畑施設利用者名簿』を改訂しました

農場菜の実習
中部高冷地帯における農業・環境教育
共同利用拠点

演習林菜の実習
僅州を舞台とした自然の成り立ちから
山の生産までを学ぶ教育関係共同利用
拠点

構内ステーション
持続的な農業生産に繋がる実習や、
農業・生態・風致など、多目的な教育・
研究に活用されます。

野辺山ステーション
日本でも有数の高冷野菜地帯（標高
1,351m）に位置し、精進連勝による
環境保全型の高冷地農業の発展に
関する教育・研究を推進していま
す。

西駒ステーション
中央アルプス北部に位置し、標高約
1,200mから2,600mの山地帯から
高山帯までの広大な天然林と豊かな
野生動物相を有します。

手良沢山ステーション
大部分が人工林で、循環型森林管理
を目的とした樹林、育林、木材生産
等の教育・研究の場として活用され
ます。

3) 共同利用運営委員会

共同利用運営委員会は、それぞれ学内委員（センター長，農場主事，野辺山の主事，教員1名）および学外委員（他大学等の有識者4名）で構成する。

※平成29年10月，細則の改定により，学外委員(他大学等の有識者)が，4名から5名に変更となった。

令和7年度共同利用運営委員会委員名簿

所属	役職	氏名
東京農業大学農学部	教授	馬場 正
佐久大学看護学部	講師	櫻井綾香
高崎健康福祉大学	准教授	岡部 繭子
長野県野菜花卉試験場	場長	宮本賢二
南牧村	村長	有坂良人
信州大学農学部	AFC長	岡野哲郎
信州大学農学部	農場主事	今井裕理子
信州大学農学部	野辺山主事	上野 豊
信州大学農学部	農学部教授	松島 憲一

2. 令和7年度開講演習等の概要

①高冷地域植物生産生態学演習

1. 演習の目的

野辺山ステーションおよび構内ステーションで栽培される多くの園芸作物を教材に、近隣のJA施設、農家見学、加工実習などを通して、高冷地域における作物の栽培から収穫・出荷までを重点的に学ぶ。

2. 実施日

令和7年8月18日(月)～8月21日(木)

3. 実施場所

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター
野辺山ステーションおよび構内ステーション

4. 担当教員

阿久津雅子准教授、今井裕理子助教、椎葉湧一朗助手

5. 参加人数

44名

6. 演習内容の概要

【1日目】午前中に野辺山ステーションに到着し、野辺山の農業や複合農業について講義を行った。午後は、川上村にてズッキーニ農家の見学を行い、その後JA長野八ヶ岳の集荷場および白菜圃場を見学した。見学の際の説明は、ズッキーニ農家は農場主である油井氏、JA長野八ヶ岳は指導員である大槻指導員に説明していただいた。その後、平沢峠の獅子岩展望台を見学した。その後野辺山ステーションに戻り、翌日のキャベツ収穫のための段ボール作りとスイートコーンの収穫を行った。

【2日目】終日、キャベツの収穫と出荷のための調整作業を行い、出荷作業を行った。作業を終え、15時30分に伊那キャンパスへ向けて出発した。

【3日目】午前中は松川町の信州まし野ワインを見学した。社長の宮沢氏より醸造施設、有機果実生産と堆肥製造について説明を受けた。30年以上有機農業による脱炭素を目指した農業を行っており、それを続けていく意思と熱意の強さに驚いた学生が多かった。午後は構内農場でシクラメンの葉組み、キャベツとレタスの定植、ハクサイの播種を行った。

【4日目】構内農場にて洋ナシの収穫・除袋・予冷を行い、午後りんごの管理を行った。最後に授業アンケートおよびレポートの作成を行った。

今回の演習では、野辺山農場で行った前半でズッキーニ農家とJA長野八ヶ岳、構内農場で行った後半で信州まし野ワインの見学を行った。ズッキーニ農家とJA長野八ヶ岳の見学を行うことで、農家の現状と課題、そして今後の取り組みなど、現場の声を聞くことができた。



JA長野八ヶ岳集荷場見学の様子



白菜圃場見学の様子



野辺山農場での自炊の様子



キャベツ収穫の様子



キャベツ収穫の様子

7. 全体的な評価

(1) 今回の演習内容について、演習の楽しさに関して大変満足が参加者の88%、満足が12% (図1左)、また有益さに関して大変有益が参加者の98%、まあまあが2% (図1右) と全体的な評価は高かった。長野県ならではの高冷地の農業について学ぶことができ、普段とは違う経験ができたと感じていた学生が多かった。さらに、普段の実習は週に1度2コマ分であるが、演習では一日中農業を行うことで、農業の大変さや仲間と協力することの大切さを学んだという学生の声も多かった。また、野辺山で宿泊することにより、色々な人と関われ、仲良くなったという意見もあり、それが高評価につながったと考えられる。

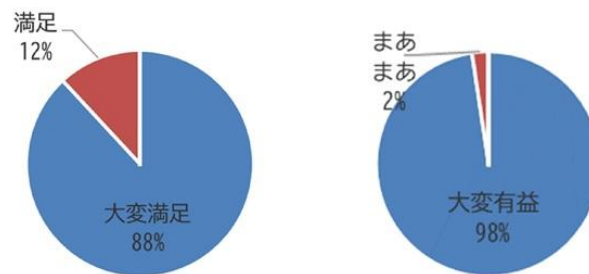


図1 演習の楽しさ(左)と有益さ(右)に関するアンケート結果

(2) 各演習内容についても、それぞれ大変満足が最も高く、不満、大いに不満はなかった。高冷地作物の収穫・出荷作業の満足度が最も高かったのは普段とは異なる野辺山での体験や宿泊など、普段の実習では行えないことを経験できたことが良かったのではないかと考える。話や講義で知り得た知識を、実際に作業として反映させることができたのではないかと考えられた。

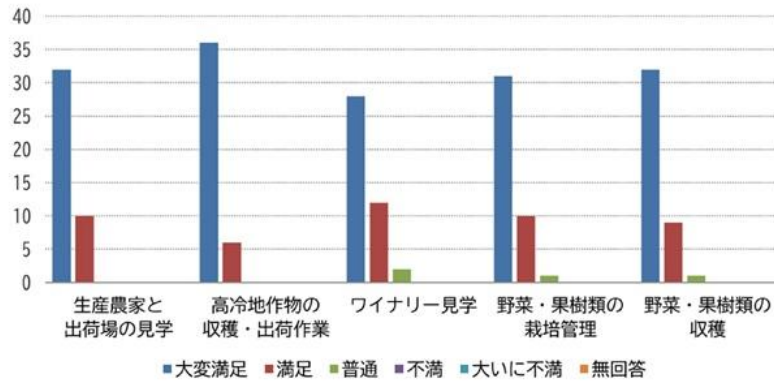


図2 各実習・講義の評価に関するアンケート結果

(3) 演習後に興味関心が増したことについては高い順に、農業 32%、高冷地 17%、食料 16%、環境 13%、野菜 12%、家畜 6%、その他（バイト、品質管理、日本の補助金システムに関する分野、酒造）4%という回答結果になった（図3）。高冷地を活かした農業や農家の現実問題（需要と供給など）に興味関心が増し、将来どのような農業をしたいかを考えるきっかけとなったという意見もあった。生産している農家によって、栽培に対する考え方や手法が異なることを学ぶとともに、一日中作業をすることで農家の大変さを学んだ学生も多かった。



図3 演習参加後に興味・関心が増大した事に関するアンケート結果
このアンケートは選択式であり、
選択肢は食料、農業、環境、高冷地、野菜、家畜、その他である

8. 今後の予定と改善点

本演習では高冷地域における農業の現状や環境、課題について様々な視点から知り、考えることを目的として実習内容を組んでいる。しかし、今年は猛暑が激しく、暑さで体力的につらかったという学生が多かった。その一方で、ワイナリーで販売しているキンキンに冷えたリンゴジュースの試飲や、伊那ステーションであらかじめ収穫をし、予冷をした和ナシの試食が良かったとレポートに記載している学生が多く、今後は学生が持参した飲み物等を冷えたまま置いておけるように工夫したりなど、事前の暑さ対策も考える必要があるのではないかと考えた。

②高冷地域動物生産生態学演習

1. 演習の目的

肉用牛および乳用牛の飼養管理，飼料作物の管理，畜産物の加工，近隣の畜産関連施設見学を通して，高冷地域における畜産と耕畜連携について学ぶ。

2. 実施日

令和7年8月25日（月）～8月28日（木）

3. 実施場所

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター
野辺山ステーションおよび構内ステーション

4. 担当教員

今井裕理子助教，上野 豊准教授，椎葉湧一朗助手

5. 参加人数

39名

6. 演習内容の概要

【1日目】午前中に野辺山ステーションに到着し，野辺山の農業や複合農業について講義を受けた。午後は，JA長野八ヶ岳の集荷場を見学した。見学の際は，JA長野八ヶ岳の指導員に説明していただいた。その後，平沢峠の獅子岩展望台を見学した。野辺山ステーションに戻った後，子牛の去勢を見学し，野生動物被害（ニホンジカ）について講義を受けた。最後に，翌日のキャベツ収穫のための段ポール作りを行った。

【2日目】午前中はキャベツの収穫と出荷のための調整作業と出荷作業を行った。午後は二ツ山牧場主の吉澤氏を招き，講演していただいた。その後，採草地およびデントコーン圃場を見学し，15時30分に伊那キャンパスへ向けて出発した。

【3日目】演習の後半（3日目・4日目）は構内ステーションで実施した。午前中は上伊那農業高校を訪問し，同校における肉用牛の飼養管理，キノコ廃菌床を使った牛用飼料開発や獣害対策としてのジビエ推進（シカ肉の加工利用）に関する取り組みについて説明を受け，高校生との質疑応答を行った。その後，構内ステーションに戻り，食用トウモロコシの収穫後の残穂を牛のエサとして利用するために刈取り作業を行った。午後は牧草の播種作業，畑周辺の雑草除去，牛道沿いの灌木撤去を行った。

【4日目】午前中は，株式会社マイファーム主催のワークショップ「人と農の距離を近づける」に参加した。本ワークショップは，日本の農業界の現状と動向を学び，農業の可能性や魅力，農業の未来について思考することを目的として実施された。午後は，乳製品加工としてチーズができる原理を学び，実際にモッツァレラチーズの製造を行った。また，4日間を振り返ってレポートを作成した。



JA長野八ヶ岳の白菜畑で説明を受けている様子



獣医師による去勢を見学している様子



キャベツ収穫の様子



酪農家さんの話



マイファームによるグループワークの様子

7. 成果

(1) 全体的な評価

今回の演習内容について、演習の楽しさに関して大変満足が参加者の74%、満足が26%（図1左）、また有益さに関して大変有益が参加者の87%、まあまあが13%（図1右）と全体的な評価は高かった。高冷地特有の農業について知り、実際に作業することで農業の楽しさや大変さについて身をもって実感できた、生産現場の実情を知ることができてよい機会だったという回答が多くみられた。動物に直接触れあう内容が少なかったとの意見もあったが、畜産分野以外の野菜の収穫や市場見学、生産や流通に関わる現場の方との対話などを通じて、普段の実習では得られない知識や経験を増やせたことに対して満足や有益さを感じた学生が多かった。

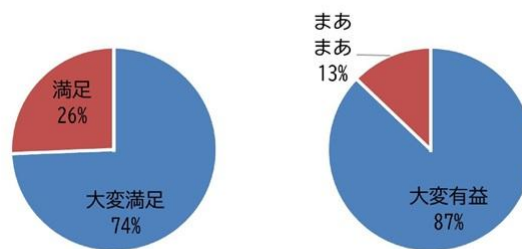


図1 演習の楽しさ(左)と有益さ(右)に関するアンケート結果

(2) 各演習内容について

各演習の評価についても、大変満足が多く、特に高冷地野菜（キャベツ）の収穫や畜産関連施設見学、乳製品加工で評価が高かった。

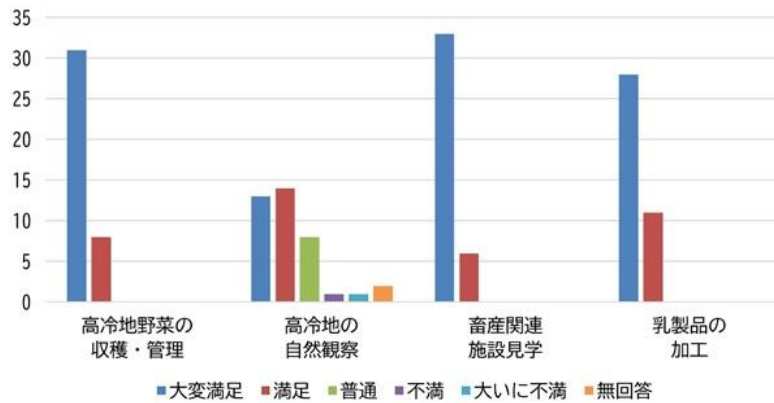


図2 各実習・講義の評価に関するアンケート結果

施設見学では、上伊那農業高校における牛の飼養管理や高校生によるジビエや未利用資源の飼料化に関する取り組みから学ぶところが多く、刺激を受けたとの声が多く聞かれた。また、キャベツの収穫と出荷のための調整作業、高冷地JAの出荷場の見学を通して一貫した農業の流れを知ることができた、高冷地ならではの農作業体験ができてよかったという感想がみられた。一方で、天候不良のため、予定していた飯盛山登山ができず、高冷地の自然観察については満足度がやや低かった。また、アンケート項目にはないが、野辺山ステーションで去勢を見学できたことが勉強になったとの声が多かった。これは、伊那キャンパスで行う去勢法とは違う方法だったためと考えられた。

(3) 演習後、興味関心が増したこと

演習後に興味関心が増したことについては高い順に、家畜 29%、農業 19%、野菜 18%、高冷地 12%、食料 11%、環境 6%、その他（農政策、飼料、獣害について）5%という回答結果になった（図3）。家畜、農業、家畜については複数回答が多かった。これは、現場で働く方々の話を聞いたことや4日目のマイファームによる講義によって、農業現場のリアルな状況や課題を知ることができたためであると考えられる。また、4日目の国内農業の課題解決に向けたグループワークでは、演習での農作業経験や農家から話を聞いて感じたことがディスカッションの中で活かされていた。野菜と回答した中で特に多かったのはキャベツの廃棄量に驚いたという感想で、このことも食料生産や農業における課題と繋がり、学生の興味・関心を増大させる要因となったと考えられる。

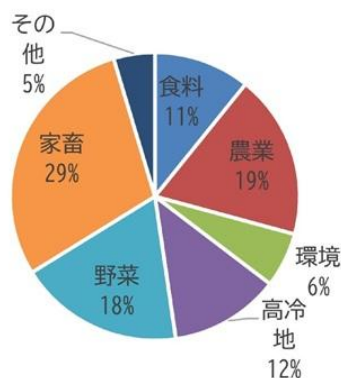


図3 演習参加後に興味・関心が増大した事に関するアンケート結果
このアンケートは選択式であり、
選択肢は食料、農業、環境、高冷地、野菜、家畜、その他である

8. 今後の予定と改善点

実習の満足度は全体的に高く、キャベツ収穫やチーズ作り、様々な施設見学、現場の声を聴く機会など、普段の動物コースの実習では体験しないような内容を経験することができた点を満足度の高さとしてあげる声が多かった。一方で、自然観察ができなかったことや動物と触れ合える機会が少なかったことを残念とする声もあり、雨天時の対応や動物を使用する内容についてさらに検討する必要がある。また、近年の猛暑の影響による暑さで疲弊する学生もいた。そのため、暑熱対策として冷房機器（扇風機など）の導入などを検討する必要があると考えられた。さらに、野辺山の宿泊施設や実習内容の詳細を事前に知りたいという要望やコンポストの改善要望が多かったため、次年度以降は宿泊施設の概要書の配布や、コンポスト増設の検討や周辺環境整備に力を入れていきたい。

③高冷地域生物生産生態学演習

1. 演習の目的

野辺山農場及び構内農場において、演習では収穫体験を主として農から食への過程を体験的に学習し、園芸作物生産の基礎知識を習得する。高冷地域の植物生産と動物生産を複合的に学ぶことで、「食の安全、安心、安定生産」や「環境保全」などの分野に対する理解をより深める。

2. 実施日

令和7年9月1日（月）～9月4日（木）

3. 実施場所

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター
野辺山ステーションおよび構内ステーション

4. 担当教員

今井裕理子助教，阿久津雅子准教授，椎葉湧一朗助手

5. 参加人数

42名

6. 演習内容の概要

【1日目】午前中に野辺山ステーションに到着し、野辺山の農業や複合農業について講義を受けた。午後は、JA長野ハヶ岳の集荷場と生産圃場を見学した。見学の際には、JA長野ハヶ岳の指導員から集荷場内の設備や管轄地域での生産概況などの説明があった。その後、飯盛山登山を行った。野辺山ステーションに戻った後、翌日のキャベツ収穫のための段ボール作りとトウモロコシの収穫調整を行った。

【2日目】午前中はキャベツの収穫と出荷のための調整作業と出荷作業を行った。午後はニツ山牧場主の吉澤氏を招き、講演していただいた。その後、採草地およびデントコーン圃場を見学し、伊那キャンパスへ向け出発した。

【3日目】午前中は信州まし野ワインを見学し、近隣地域における果樹栽培と農産物加工の歴史や有機栽培について説明していただいた。午後は漬物野菜の播種とシクラメンの葉組み作業を行った。

【4日目】午前中は牛の飼養管理として、除糞作業とブラッシングを行った。午後は4日間を振り返り、レポート作成を行った。



飯盛山登山



キャベツの収穫



ワイナリーの見学



シクラメンの葉組み



牛のブラッシング

7. 成果

(1) 全体的な評価

今回の演習内容について、演習の楽しさに関しては大変満足が参加者の82%、満足が18%（図1左）、また有益さに関しては大変有益が参加者の95%、まあまあが5%（図1右）と全体的な評価は高かった。

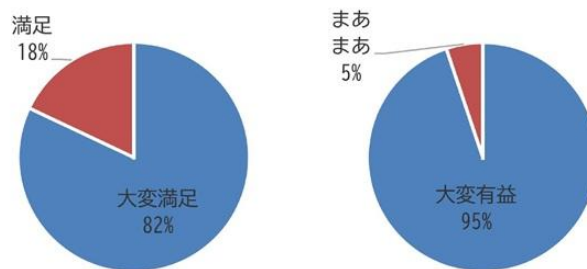


図1 演習の楽しさ(左)と有益さ(右)に関するアンケート結果

本演習の履修者は普段農場での実習を行わないコースの学生である。普段は行うことのない農作業を経験し、現場で働く人の話を聞いたことに対して、楽しさを感じ有意義な時間であったと回答する学生が多く、このことが満足度や有益さに対する高い評価に繋がったと考えられる。また、演習内容を通して、自分の専攻にとらわれず視野を広げる良い機会となったという回答も多くみられた。

(2) 各演習内容について

いずれの実習内容も大変満足、満足の回答がほとんどであった。キャベツの収穫作業、野菜や花卉の栽培管理、牛の飼養管理では農作業の大変さを実感し、見学では農家や現場で働く人との質疑応答によって、「農業」をリアルなものとして感じ、考えることができたという感想が多くみられた。実際に体を動かし、生の声を聞き、質疑応答の機会が多くあったことが、主体的な学びに繋がり、満足度を高めたと考えられる。

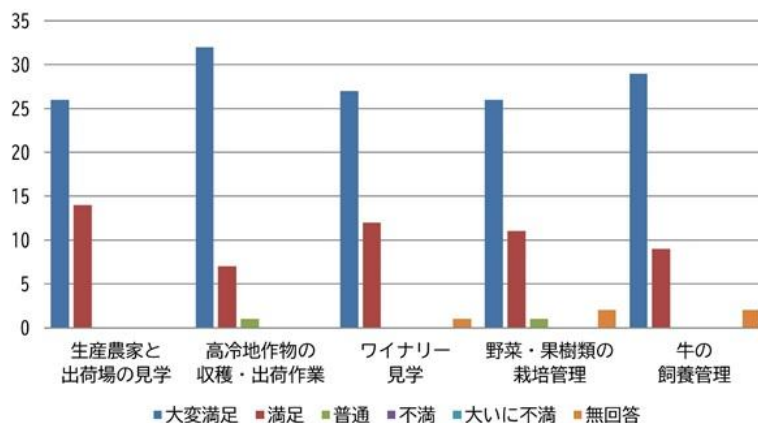


図2 各実習・講義の評価に関するアンケート結果

(3) 演習後、興味関心が増したこと

演習後に興味関心が増したことについては高い順に、農業 26%、家畜 18%、環境 16%、食料 12%、野菜 11%、高冷地 10%、その他 7%という回答結果になった（図 3）。

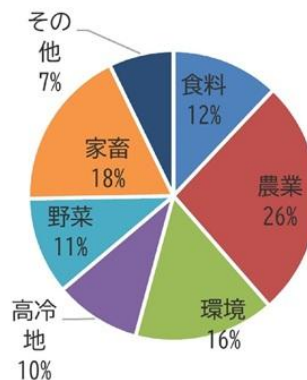


図3 演習参加後に興味・関心が増大した事に関するアンケート結果
このアンケートは選択式であり、
選択肢は食料、農業、環境、高冷地、野菜、家畜、その他である

演習内容を通して、農業と畜産の繋がりについて理解した、食料・食品の背景にある農業そのものに興味が沸いた等の感想が多くみられた。農畜産業・食品加工業の現場に携わる方々の様々な視点から話を聞いたことで、農業や畜産と環境との関わりや課題について理解が深まり、これらについて改めて考える貴重な機会になったようである。

8. 今後の予定と改善点

反省点としては、本演習の履修対象者は普段大型家畜との接点がないため、牛舎での作業（ブラッシングやボロ出し）においては、安全性の確保や衛生環境に対してより配慮する必要がある。今後の対応策としては、牛に慣れた職員や TA による実習指導側の増員やマスク着用を伝えることなどが挙げられる。また、演習内容や野辺山宿泊施設における備品の情報等をもっと早く詳細に伝えてほしいという要望も複数あった。次年度以降は事前周知のタイミングを早め、できる限り詳細な内容を伝えられるよう努めたい。

④高冷地域応用フィールド演習

1. 演習の目的

準高冷地の構内ステーションの生産圃場において野菜及び果樹類を教材として、野菜圃場の準備、播種、定植から収穫、出荷までの一連の作業と果樹の収穫・管理作業を通じて生産技術の習得を目的に、複数回の実習形式で行う。また、講義や近隣施設の見学を適時行いながら、現場での栽培技術や6次産業化をめざした安定生産技術を習得し、準高冷地および高冷地における園芸作物の生産や流通システムについて理解を深める。

2. 実施日

令和7年5月31日(土)、6月21日(土)、9月17日(水)～9月19日(金)

3. 実施場所

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター
構内ステーション

4. 担当教員

阿久津雅子准教授、今井裕理子助教

5. 参加人数

46名

6. 演習内容の概要

【第1回 5月31日】ナス、ピーマン、トマト、カボチャの定植とスイートコーン3品種、レタス、キャベツ、ブロッコリーの播種を行った。播種はコーティング種子および非コーティング種子を用い、200穴のセルトレイに育苗培土を詰めて行い、種子コーティングの有無による作業性の比較も併せて行った。

【第2回 6月21日】1回目に播種した、レタス、キャベツ、ブロッコリーの定植と、スイートコーンの生育調査を行った。スイートコーンは播種後の鎮圧方法による発芽率や生育差異について比較し、調査した。

【第3回 9月17日～19日】JA箕輪果樹選果場へ行き、果樹の農家からの出荷・機械による選果・箱詰め等を見学し、リンゴの食べ比べをさせていただいた。また、ナシやブルーベリーの収穫、リンゴや夏秋イチゴの管理、シクラメン葉組み、スイートコーン圃場の片づけ、ネギやケールの収穫なども行った。最終日には、リンゴやナシなどの販売用パッキングも行い、生産から出荷までの一連の流れを経験した。



葉菜類の定植



大玉トマトの脇芽取りと誘引作業



スイートコーンの生育調査



洋ナシのパッキング作業

7. 成果

(1) 全体的な評価

今回の演習内容について、演習の楽しさに関しては大変満足が参加者の76%、満足が17%、普通が7%（図1左）、また有益さに関しては大変有益が参加者の81%、まあまあが17%、普通が2%（図1右）と全体的な評価は高かった。いつもの実習と異なり、植物資源科学コースの学生だけでなく、他コースの学生も多く参加していたことから、実習をし慣れている学生とそうでない学生で感じたことが異なっていた。植物資源科学コースの学生は、「播種から収穫、販売までの一連の成果物の流れを十分に学ぶことができた」や、「栽培から出荷までこまめで繊細に管理、手間ひまかけて作られているのを知り、いつもは少し高いと思う果物、野菜の価格がとても安く感じられた」などの感想が多かったが、他コースの学生からは「他コースが行っている実習を知り、関わることで良かった」や、「自分の専門ではないことをたくさん学べ、色々な品種の試食ができて良かった」などの感想が多く、演習に満足している学生が多かったことにつながったと考えられる。

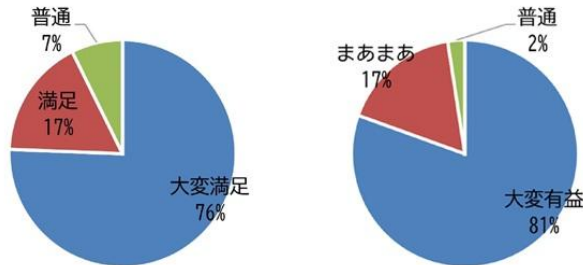


図1 演習の楽しさ(左)と有益さ(右)に関するアンケート結果

(2) 各演習内容について

各演習内容についても、それぞれ大変満足が最も高く、不満、大いに不満はなかった。普段の実習では行えない収穫から包装までを経験することができたことが良かったのではないかと考える。また、熱中症対策だけでなく、自分たちが収穫したものの味を知ってもらいたいとの思いから、ナシなどの試食を行ったことで、品種によって糖度や酸度、食感などが異なることを顕著に感じられたことも良かったのではないかと考えられる。また、話や講義で知り得た知識を実際に作業として反映させることができたのではないかと考えられた。

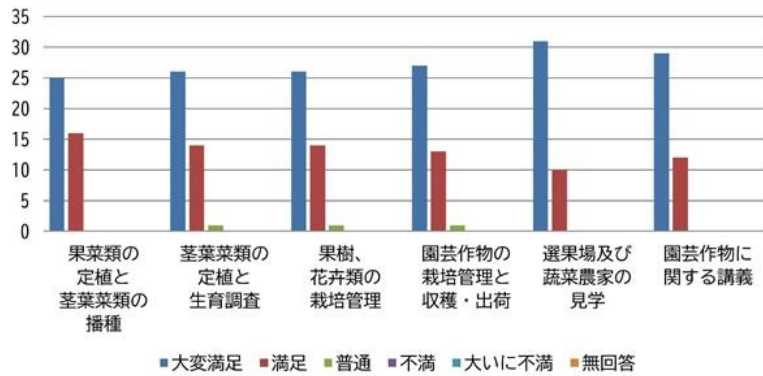


図2 各実習・講義の評価に関するアンケート結果

(3) 演習後、興味関心が増したこと

演習後に興味関心が増したことについては高い順に、流通 29%、農業 25%、野菜 17%、品種 16%、高冷地 7%、家畜 3%、その他 3% という回答結果になった (図 3)。今までの実習や演習では時間やタイミングの都合上触れられなかった部分 (収穫から包装まで) を行ったことや、農家が収穫した果樹が選果場へ運ばれ、実際に選果され、段ボールに梱包され、トラックで各地に運ばれているという流れを選果場での見学で触れたことで、流通や農業への興味が高かったのではないかと考えられる。

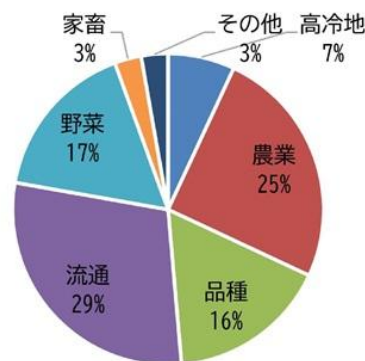


図3 演習参加後に興味・関心が増大した事に関するアンケート結果
このアンケートは選択式であり、
選択肢は高冷地、農業、品種、流通、野菜、家畜、その他である

8. 今後の予定と改善点

今年度とほぼ同様な内容で実施する予定であるが、実習の各工程がつながった形で農産物が市場に出る流れをさらに明確な内容に整備していきたい。

⑤高冷地域先端農業特別演習

1. 演習の目的

小型無人ヘリ（ドローン）は航空法で定められた範囲の飛行高度から鮮明な空撮画像を取得し、作物や牧草の生育状況や周辺環境の観測に活用できる。リモートセンシングによって、農地を対象にした効率的な生産情報の収集・評価を行うための基本技術を習得する。ここでは高冷地における野菜類、牧草、ソバ、樹木等の観測を実際に行い、ドローン機材の特徴、撮影方法、画像解析技術を学び、現地調査を行いながら、画像から読み取れる情報の解析と評価を行う。

2. 実施日

令和7年8月20日（水）～22日（金）

3. 実施場所

農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター（AFC）
野辺山ステーション

4. 担当教員

渡邊 修，叶 戒玲（信州大学学術研究院農学系）

5. 参加人数

14名（うち1名は技術職員）

6. 演習内容の概要

(1)実施場所

標高1,351mに位置する信州大学 AFC 野辺山ステーション（長野県南佐久郡南牧村野辺山 281-3）は、8月の最高気温が30℃を超えることがほとんどなく、年平均気温は旭川と同等で、構内にアメダス観測点がある。南牧村や川上村は国内有数の高冷地野菜の大規模産地である。近年、夏期の気温が高いため、野辺山ステーション内にある気象庁アメダス観測点のデータを入手し、平年値との比較を行った。日平均気温は2～3°高いことが示された（図1）。

(2)演習1. 空撮画像によるキャベツ球形サイズの計測

UAV（ドローン）空撮画像を正射投影（オルソ化）すると、PC画面で計測した距離や方向と現実空間が一致する。これを「写真測量」と呼び、UAVが発達する前から、土木分野などで活用されてきた。UAV空撮画像は解像度が非常に高いため、画像から野菜類の葉の形状、大きさなどを非破壊で計測できる。ここではAFC野辺山ステーションの野菜生産圃場を対象に、UAV空撮画像から収穫前のキャベツの球形サイズを計測し、実測値との差を評価する演習を行った。参加者を4班に分けて、各班で30個体のキャベツ直径を計測し、実測値と画像から取得した推定値を比較した。測定値の誤差（RMSE）は約1cm程度であり、高い精度で計測できることが示された。

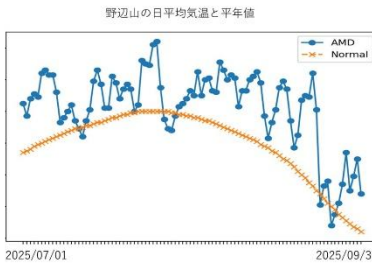


図1. 野辺山の平均気温



図2. UAV空撮画像を用いたキャベツサイズの実測



図3. QGISを用いたキャベツ収穫直前個体の直径の計測

(3) 演習 2. ドローン空撮画像によるソバ群落の生育状態の評価

ドローン空撮画像は地物を直接観測できることに加え、三次元測量が可能である。SfM (Structure from Motion) はステレオペア画像を用いた写真測量の発展型である。この技術により、空撮画像から三次元復元が可能となり、地物の形状、地物の高さなどの情報が取得できる。また、マルチスペクトルカメラを搭載した小型ドローンを用いてソバ群落のバラツキも評価できる。

演習 2 では、高解像度空撮画像、数値表層モデル、地面高、植生指数画像を使い、ソバ (キタワセ) の生育状態を評価するため、ソバ圃場 1 とソバ圃場 2 の群落高と被度を現地で測定したのち、正規化植生指数 (NDVI) マップから植生指数を取得する。生育の良いソバ圃場と悪いソバ圃場の乗算優占度と植生指数との関係を調べた。

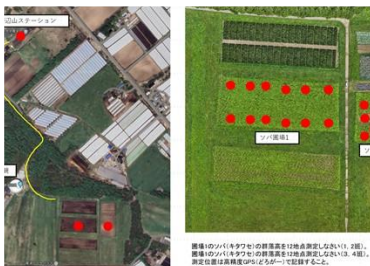


図4. 演習2で用いたソバ圃場

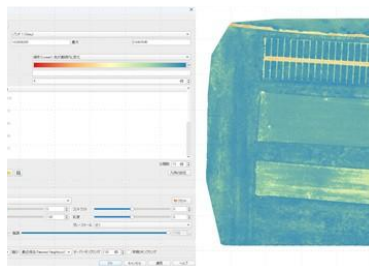


図5. 植生指数NDVIによりソバ圃場の生育状態

(4) 演習 3 演習林の樹木高の推定

野辺山ステーション全体を高度 120m からドローンで空撮した。RGB 画像と地面高の補正を行った数値表層モデル (DSM: Digital Surface Model) の画像を用いて、Canopy Height Model の原理から、演習林の樹木高の推定マップを作成した。

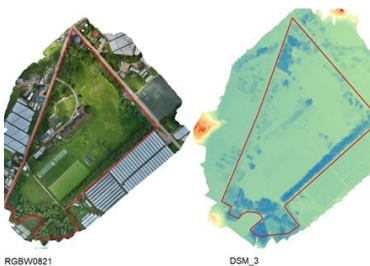


図6. 演習林の樹木高の推定マップ

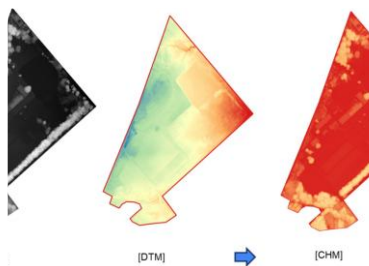


図7. 演習3で用いた空撮画像とデジタル標高マップ

7. まとめ

UAV（ドローン）は、航空法の範囲内（住宅密集地や重要施設が無いエリアで高度 150m以下）でユーザーが観測したい対象物を任意の時期に撮影でき、農林業の様々な対象物を高精度に観測できる。画像解析に用いた地理情報システム（QGIS）はオープンソースのフリーソフトであり、空撮画像を適切に処理することで、地物の計測、標高値から推定した高さ情報などを面的に取得できる。QGIS の使い方を習熟すると、自分の研究に適用できる可能性があることや、今後、地理情報を活用した仕事に活かせるかもしれない。これまで植生情報はコドラートを設置し、メジャーで計測してきたが、オルソ画像を多人数で共有し、解析作業を進めることで、広域で地物の計測を効率的に実施できる。また、計測に用いた画像を残すことで、多時期の比較や年度を超えたデータ解析ができる点が有用である。この演習では UAV 空撮画像の処理と計測のスキルを身近な対象物で実施できることを習得し、リモートセンシングの基礎技術を理解できる。

⑥注文型応用演習

本年度は下記の1校の利用を受け入れた。

佐久大学による利用

佐久大学が8月22日に「地域生活者交流実習」を行った。農作業が身体と暮らしにどのように影響しているかについて、野辺山農場における農業体験の学習を通して考察した。野辺山農場担当教員と技術職員が実習計画の立案補助、農業体験実習の指導を行った。

1. 実習目的

「地域生活者交流実習」

2. 実施日

令和7年8月22日（金）

3. 参加人数

9名（教員1名，学生7名）

4. 施設利用，対応

施設（食堂，トイレ）の提供，実習計画の立案補助，農業体験実習の指導（キャベツ収穫など）

⑦注文型プログラム（高冷地域農家実践演習）

本年度の利用はなかった。

3) オープンフィールド教育

本年度は下記の123名（延べ974名、学生のみ）の利用を受け入れた。

	概要	利用 人数	延べ 人数
1	本学理学部理学科地球学コースの学生11名と東北大学の学生5名が「アドバンス演習・実験・実習Ⅲ」の野外調査および合同巡検を行った。宿泊施設の提供などの支援を行った。	16	48
2	総合理工学研究科理学専攻の大学院生2名が修士論文研究として、野辺山農場を拠点に川上村周辺の調査を行った。宿泊施設の提供などの支援を行った。	2	33
3	京都大学の大学院生2名が修士論文研究および博士論文研究として、信州大学農学部植物遺伝育種学研究室（根本和洋助教）とのコムギ高地適応性評価に関する共同研究を野辺山農場で行った。試験圃場の提供、管理などの支援を行った。	2	32
4	三重大学の学生1名が野辺山農場でUAVセンシングに関する研究を行った。試験地の提供などの支援を行った。	1	3
5	神奈川大学理学部の学生16名が筑波大学川上演習林で森林実習を行うために野辺山農場を利用した。宿泊施設、講義室の提供などの支援を行った。	16	64
6	九州大学の学生5名、鹿児島大学の学生3名が野辺山電波望遠鏡を用いた星形成領域の観測を行う九州大学・鹿児島大学・香川大学の合同実習に参加した。宿泊施設の提供などの支援を行った。	8	49
7	香川大学の学生2名、茨城大学の学生1名、大阪公立大学の学生2名が国立天文台野辺山宇宙電波観測所で行われた「野辺山星・惑星系形成研究会」に参加するために野辺山農場を利用した。宿泊施設の提供などの支援を行った。	5	22
8	岐阜大学の学生1名、大妻女子大学の学生8名が国立天文台野辺山宇宙電波観測所で行われた研究会「野辺山開発プログラムミーティング2025」に参加するために野辺山農場を利用した。宿泊施設の提供などの支援を行った。	9	43
9	茨城大学の学生1名、山口大学の学生1名、東京大学の学生3名、名古屋大学の学生1名が国立天文台野辺山宇宙電波観測所特別公開2025に参加するために野辺山農場を利用した。宿泊施設の提供などの支援を行った。	6	16
10	筑波大学の学生9名、明治大学の学生1名、公立諏訪東京理科大学の学生1名が国立天文台野辺山を活用した天文普及と地域活性化の探究・実践のため野辺山農場を利用した。宿泊施設の提供などの支援を行った。	11	48
11	東京学芸大学自然科学天文学土橋研究室の大学院生5名が国立天文台野辺山宇宙電波観測所で野辺山45m電波望遠鏡および光学望遠鏡による天体観測を行うため野辺山農場を利用した。宿泊施設の提供などの支援を行った。	5	20
12	新潟大学宇宙物理学研究室の学生5名が国立天文台野辺山宇宙電波観測所において実習を行った。宿泊施設の提供などの支援を行った。	5	10
13	大阪公立大学大学院理学研究科電波天文学研究室の学生17名が国立天文台野辺山宇宙電波観測所で電波望遠鏡観測を行った。宿泊施設の提供などの支援を行った。	17	227
14	名古屋市立大学の学生2名が国立天文台野辺山宇宙電波観測所で電波望遠鏡観測を行った。宿泊施設の提供などの支援を行った。	2	6
15	神奈川大学工学部の学生11名が国立天文台野辺山宇宙電波観測所で観測実習を行うために野辺山農場を利用した。宿泊施設の提供などの支援を行った。	11	83

	概要	利用 人数	延べ 人数
16	武蔵野大学の学生 6 名が国立天文台野辺山宇宙電波観測所で野辺山 45m 電波望遠鏡を用いた観測実習を行った。宿泊施設の提供などの支援を行った。	6	12
17	鹿児島大学の学生 1 名が修士論文研究として国立天文台野辺山宇宙電波観測所で電波望遠鏡観測を行った。宿泊施設の提供などの支援を行った。	1	22
18	電気通信大学の大学院生 1 名が国立天文台野辺山宇宙電波観測所で観測を行うため野辺山農場を利用した。宿泊施設の提供などの支援を行った。	1	256
	計	125	994

4) 大学以外の機関による利用

本年度は下記の利用を受け入れた。

	概要	利用 人数	延べ 人数
1	大学利用機関法人国立天文台が8/30に開催された国立天文台野辺山宇宙電波観測所特別公開2025に関して野辺山農場を利用した。 国立天文台チリ観測所の研究員が国立天文台野辺山宇宙電波観測所にて開催された「大規模マルチビーム受信機の検討会」に参加するため野辺山農場を利用した。 国立天文台アルマプロジェクトの研究員が国立天文台野辺山45m電波望遠鏡を使った観測を行うために野辺山農場を利用した。	35	86
2	国立研究開発法人情報通信研究機構テラヘルツ研究センター テラヘルツ連携研究室の研究員が国立天文台野辺山宇宙電波観測所にて大気中の水蒸気からの電波放射の測定実験を行うために野辺山農場を利用した。	1	2
3	雪印種苗株式会社が飼料用トウモロコシの開発試験のため野辺山農場を利用した。試験圃場の提供、管理、助言などの支援を行った。	5	21
4	伊那市と信州大学農学部が共同で取り組む「伊那在来そばREBORNプロジェクト」がAFC構内農場内の実験圃場で8/5にそばの播種、10/23にそばの刈取り作業を行い、農学部植物遺伝育種学研究室学生10名が参加した。8/5のそばの播種には地元の農家、伊那市の職員10名も参加した。実験圃場の提供、管理などの支援を行った。	20	30
5	伊那市立伊那北小学校2年生の児童47名と引率職員2名が11/5に構内農場と中家畜舎を訪れ、牛や羊、ヤギの様子を観察し、実際にヤギとふれあうことを通して、ヤギの生活や生態、命の尊さについて考える見学会を実施した。AFCの教員が農場と家畜舎を案内し、ヤギの生態などについてミニ講義を行った。	49	49
6	まつもと農村女性協議会の会員23名と事務局員2名が11/12に構内農場を見学した。AFCの教員が農場を案内し、AFCの活動について紹介した。	25	25
7	伊那市、南箕輪村の小中学生がいる家族を対象に、構内農場および野辺山農場で農業・畜産・林業・加工を実際に行い、食の勉強と体験を楽しむことを目的とした「土と緑の体験講座」を開講した。全7回の講座に15組57名の家族が参加し、田植えや稲刈り、果物の収穫と加工品作り、キャベツやスイートコーンの収穫、牛の餌やりなどを体験した。	57	329
	計	192	542

5) 学部内利用

研究室ゼミ，卒業論文研究および修士論文研究の場として，下記の研究室が野辺山農場圃場を利用した。

- ・栽培土壌学研究室
- ・植物遺伝育種学研究室
- ・動物行動管理学研究室
- ・蔬菜園芸学研究室
- ・野生動物管理学研究室

6) 利用実績

利用機関	令和7年度		
	利用機関数	利用人数	延べ人数
学内（法人内）	3	195	826
内数	26	125	953
他大学			
国立大学	17	52	510
公立大学	3	22	245
私立大学	6	51	198
内数	7	192	542
大学以外の機関			
大学共同利用機関法人	1	35	86
民間・独立行政法人等	2	6	23
外国の研究機関	0	0	0
その他	4	151	433
(利用者数全体のうち大学院生)		(59)	(712)
計	36	512	2,321

7) アンケート結果

①高冷地域植物生産生態学演習

実習日：令和7年8月18日（月）～8月21日（木）

受講者数：44名（回答者数：44名）

■高冷地域植物生産生態学演習について

楽しさ	大変満足	満足	普通	不満	大いに不満	無回答
	37	5	0	0	0	0
有益さ	大変有益	まあまあ	普通	あまり	全く	無回答
	41	1	0	0	0	0

【理由、感想等】

- ・信州大学ならではの、長野県ならではの高冷地の農業について学ぶことができ、普段はできない経験ができたと感じるため。将来どのような農業をしたいかについて考えるきっかけにもなったと感じる。
- ・実際に見て体験することで印象によく残るし、仲間と協力するのがとても楽しかったから。
- ・初めて知ることが多くて楽しかった。
- ・色々な人と関わって仲良くなれた。また、実習の授業では学べない高齢地域の作物や栽培方法について学べた。
- ・ふだなじみのない環境に身を置き、めずらしいことをたくさん体験しながら学べたから。
- ・伊那キャンパスだけでは体験できなかったことがたくさんあったから。
- ・高冷地でしか体験できないものばかりだったから。
- ・普段は過ごせない仲間たちと過ごせてよかった。高冷地の現状を知れた（外国人研修生の問題、需要と供給など）。
- ・普段の実習と似たようなことと、全く違うこと、両方とも経験することができたのと、なかなか見ることができない施設を見学することができたため。
- ・なかなか行けない野辺山で実際に農家さんに話を聞いたり、JAさんの出荷や保存の仕方などを見れたから。
- ・宿泊でみんなで過ごせたことがとても楽しかった。
- ・今までに触れたことのない話を聞いたこと、泊りの行事で楽しかったこと
- ・初めて知ることがたくさんあって学びになった。
- ・高冷地で普段見られない栽培現場を見ることができた。
- ・生産者の生きた意見など、大学では触れることのない情報を得ることができたため。
- ・一日中農作業をすることで、通常の実習より現実的な体験ができた。
- ・一泊二日でたくさんの人と話せた。実際の農家さんとJAを見れたのが良かった。
- ・実習も楽しかったし、知らないことについて話が聞けて有意義だった。
- ・貴重な体験をたくさんできたから。
- ・皆と共に生活ができ、普段できないことができ楽しかった。
- ・高冷地という特殊な土地での農業を学べてよかった。
- ・友だちと楽しく学ぶことができた。
- ・大変楽しむことができた。
- ・実践的で楽しかった。
- ・クラスの人の生活がとても楽しかったから。農家の人の話を実際に聞くことができたから。
- ・宿泊が楽しかった。また来年もやりたいと思う。ないけど。

- ・様々な農家に見学に行き、それぞれの農業の特色を知ることができたから。
- ・JA や農家、ワイナリーなど、実習以外の経験をすることができ、演習でしかできないことを体験できた。
- ・楽しかった。
- ・体力的にきつかった。
- ・キャベツのマルチをはがす作業が最も印象に残った。
- ・野辺山で本格的な農業を体験することができた。
- ・野辺山での実習で農学部として農業を学んだとともに宿泊をして楽しめたから。
- ・同年代の学生と協力しながら高冷地に特有の農業形態について経験することができたから。
- ・普段扱えない野菜を世話することができたから。
- ・初めて知ることばかりでとても勉強になった。
- ・実際に野辺山や松川などの高冷地に行き、農業を行っている様子を見学させていただいたり、農作業をさせていただけることがとても楽しく、貴重な経験となりました。
- ・農業についての知識、技術の習得とともに、観光を兼ねることができたため。
- ・色々な農家の話を聞くことができてよかった。
- ・ここでしかできない体験で楽しかったが、疲れがすごかった。
- ・普段見ることのできない収穫や出荷について実際に見たり、やったりできて楽しかった。

■各講義・実習の評価

	大変満足	満足	普通	不満	大いに不満
生産農家と出荷場の見学	32	10	0	0	0
高冷地作物の収穫・出荷作業	36	6	0	0	0
ワイナリー見学	28	12	2	0	0
野菜・果樹類の栽培管理	31	10	1	0	0
野菜・果樹類の収穫	32	9	1	0	0

【理由、感想等】

- ・普段は行くことができない場所で作業したり、見学したりでき、栽培の隙理宇を見つけることができたと感じているため。
- ・各農家さんがもつこだわりや経営方法などを細かく知ることができたから。
- ・野辺山での作業が新鮮で楽しかった。
- ・特に野辺山の農家さんのお話が有益だった。
- ・初めて見るものが多くて楽しかった。
- ・この講義じゃないと得られない経験だったから。伊那は暑過ぎました。
- ・キャベツの収穫が楽しくて止まらなかった。実際の農家の方の話が聞けて勉強になった。
- ・特にワイナリー見学からの二日間で果樹についてよく学ぶことができた。高密度栽培における枝の誘因についてすべて有意義だった。
- ・キャベツの収穫はやってみたかったことだったので経験することができてよかった（肉体的にはしんどかった部分もありました）。
- ・収穫や作業だけでなく出荷したり加工したりしているところを見学できて楽しかった。
- ・たくさんのお話を聞いて楽しかった。
- ・全ての場所で満足のいく体験ができた。
- ・農家さんの話を聞く機会はないのでとても有益であった。
- ・それぞれの食部に最適な栽培方法、時期などを知識として得ることができた。
- ・仲間とともに一つのことを行うことで一体感を感じられたため。

- ・野辺山での演習では高冷地特有の実習ができたと思う。
- ・暑くて大変だったけど、初めて知ることが多かった。
- ・作業にやりがいがあった。
- ・景色がきれいだった。
- ・農家の方から普段聞けないことを聞いて興味深かった。
- ・伊那の圃場での作物の生育はほとんどの段階で見ているので愛着がわいた。
- ・農家の方のリアルな話が面白かった。
- ・初めて体験することが多く、新鮮だった。
- ・様々な野菜の農業形態について知れて面白かった。
- ・全部楽しかった。ちょー暑かったけど。
- ・真夏の炎天下で農業の厳しさを学ぶことができた。
- ・果樹に興味があったので、見学と収穫ができてうれしかった。
- ・学びになった。
- ・JAの冷却設備には驚いた。
- ・アイス、ジュース、ナシ、どれもとても印象に残る味でした。
- ・ワイナリー見学は参考になったが、正直暑すぎて内容が全然頭に入ってこなかった。
- ・満足のいく学習内容だったから。
- ・高冷地ならではの農業を様々な面から知ることができた。できれば日陰で説明できるものは日陰で説明してもらえるとありがたいと思った。
- ・農作業自体が大好きで、どの時間もとても満足できた。
- ・体力的にしんどいこともあったが、全部楽しかった。
- ・伊那での野菜や果樹類の栽培管理や収穫作業で西洋ナシやカボチャといった作物を始めて収穫させていただいたのですが、とても面白かったです。
- ・楽しく美味しく農業を学ぶことができたため。
- ・いつもの授業よりも多く実習を行えたから。
- ・ここでしかできない体験が多く、商業的な観点からの話も聞いたのがよかった。
- ・収穫や栽培管理を通して、農業の大変さを実感しました。

■演習参加後、興味関心が増したこと（複数回答）

食料	農業	環境	高冷地	野菜	家畜	その他	ない
15	29	12	16	11	5	4	0

※その他：バイト、品質管理、日本の補助金システムに関する分野、酒造

【理由、感想等（）内は興味・関心が増したこと】

- ・野辺山では高原野菜の栽培がされていて牛乳の生産も盛んであり、ワイナリーでは有機農業のお話を聞くことができたため。（食料、農業、環境、高冷地、野菜、家畜）
- ・「もし私が農家になったら…」というような農家の苦勞や楽しさも含めてイメージすることができるようになったから。（農業）
- ・流通や出荷などにも興味が湧いた。（農業、高冷地、野菜）
- ・特に出荷（よりおいしく消費者に届けるための）に興味を持った。（農業）
- ・温暖化による影響が浮き彫りになって見えていた。農業、JA、消費者の流れが見えた。（食料、農業、環境）
- ・農業の楽しいところだけでなく、大変なことも体験できたから。（農業）
- ・農業バイトに行ってみたいと思いました。（バイト）

- ・特にジュースやワイン製造について興味を持った。今後の農業経営で重要になる分野を詳しく知れたのが良かった。(食料, 農業)
- ・自分が普段食べているものが結構な苦労を経て流通していることを身をもって経験したため。(食料, 農業)
- ・高冷地という特殊な環境でも、温暖化などの変動の影響が出ていたから。(農業, 環境, 高冷地)
- ・農業をはじめ、あまり触れることのない牛についても知れた。(農業, 高冷地, 家畜)
- ・牛の話が面白かった。(農業, 家畜)
- ・高冷地の生産状況は伊那のような場所とは少し異なる環境で、興味を持った。(高冷地)
- ・現在の農業や事業を開始に至ったいきさつなどを聞くことができた。(農業)
- ・野辺山でも、温暖化により栽培に影響が出ていたため。(環境)
- ・高冷地といえど暑いように感じたので、この先キャベツやレタスを育て続けられるのか疑問に思った。(環境)
- ・JAが印象深い。真空立体冷蔵庫がフロンがなくなると使えなくなるのが大変だと思う。(品質管理)
- ・数人の農家さんや先生の話が興味深かった。(食料, 農業, 高冷, 地野菜)
- ・果物の収穫の違いを知らなかったので知れてよかった。(農業, 野菜)
- ・農業の現状を理解することができた。(農業, 高冷地)
- ・規格外のキャベツが多くあって、周辺に捨てられていたので、何とか有効活用したいと思った。(食料)
- ・高冷地の気候や生産環境が地元や伊那と違って面白かった。(高冷地)
- ・牛の受精が抜群だった。(食料, 農業, 高冷地, 野菜, 家畜)
- ・環境保全との両立の難しさを感じた。(食料, 農業, 環境, 高冷地, 野菜)
- ・農家の人の志しについて知れてよかった。農業を行う上で必要なことが分かりよかった。(農業)
- ・ソフトクリーム美味しかった。また行きたい。(高冷地)
- (農業)
- ・元から農業を通しての環境問題改善に興味があったが、現場を見てより関心を持った。(農業, 環境)
- ・(食料)
- ・農業の大切さを感じたから。(食料, 農業, 野菜)
- ・ワイナリー見学の際、あんなに素敵な味のジュースを作る会社が借金に苦しむのはおかしいと考えた。(日本の補助金システムに関する分野)
- ・高冷地での農業の特徴について興味を抱いた。(高冷地)
- ・高冷地での農業を詳しく知れたから。(農業, 高冷地, 野菜, 家畜)
- ・キャベツを中心に、市場に出荷できない傷物がおもっていたよりあって衝撃を受けたため。また高冷地に特有の様々な工夫が面白かったため。(食料, 農業, 環境高, 冷地, 野菜)
- ・農作業をして収穫した野菜を調理して食べ、本当に最高だった。(食料, 農業, 高冷地, 野菜)
- ・高冷地の農業について知る機会がほとんどなかったのでとても興味を持った。(高冷地)
- ・野辺山の高冷地で実際にキャベツやトウモロコシを収穫させていただいた上、食べさせていただき、野辺山での高冷地での農作業を通して食料や農業により関心を持つことができた。(農業)
- ・様々な農家さんがそれぞれに工夫をして農業を営んでいて、大変興味深かった。(食料, 農業, 環境, 野菜)
- ・農家の実態を知ることができて関心が増大した。(食料, 農業, 環境)
- ・有機農業や農薬を減らした特別栽培についての話を聞いて、現時点で有機農業を完全に成立させるのは難しいが、それを成立させていくのに何が必要かなどの興味が湧きました。(食料, 環境)
- ・演習で農作業をするときの暑さが自分にとってきつかったため、暑さが比較的弱い高冷地への関心が増大しました。(農業)
- ・(農業, 環境, 酒造)

②高冷地域動物生産生態学演習

実習日：令和7年8月25日（月）～8月28日（木）

受講者数：39名（回答者数：39名）

■高冷地域動物生産生態学演習について

楽しさ	大変満足	満足	普通	不満	大いに不満	無回答
	29	10	0	0	0	0
有益さ	大変有益	まあまあ	普通	あまり	全く	
	34	5	0	0	0	0

【理由、感想等】

- ・ 様々な見学ができて楽しかった。キャベツの収穫は初めて行ったが、雨で植生観察はできなかつたため、野辺山だからこその体験が少ないように感じた。また、”動物”と名前にあるわりに、直接動物と触れ合う機会が少ないように感じた。
- ・ 野辺山で実際の農家の方のお話を聞いたり、グループディスカッションで自分にはない発想や情報を得ることができて新鮮だった。
- ・ 景観がよかった。牧場の方の話を聞いてよかった。
- ・ キャベツの収穫楽しかった！
- ・ 実学を通して農学を体系的に学ぶことが多かったので、印象に残る毎日となったため。
- ・ 野辺山に行くということだけでも、一般の人は普段経験できない高冷地の気候での生活や農業を経験できるところがよかった。
- ・ 野辺山での夜の先生たちと飲んだ時に距離が一気に近くなった気がした。そこで色々な話が聞けた。
- ・ 普段やらないことを体験できるから。
- ・ 農作業を通して農業の大変さが分かった。
- ・ 自分のコースではあまり触れる機会のない内容に触れることができた。
- ・ 普段の授業では体験できない貴重な経験になった。みんなで宿泊する機会は初めてで楽しかった。
- ・ 実習の延長のような感じだったが、野辺山でしかできない体験が多くあり、充実した4日間だった。
- ・ 非日常的な体験を十分な休憩を挟んで行えたので、楽しむことができた。
- ・ ふだんの実習ではできない農業の作業をすることができた。
- ・ 楽しさと学びで充実していたが、疲れもあった。
- ・ 普段はやらないことをやることができたから。様々な学びを得ることができてとても有意義な時間を過ごせた。
- ・ 高冷地特有の農業について知り、実際に作業することで農業の楽しさや大変さを身をもって実感できた。
- ・ 2日目、3日目の作業が大変でつらいと感じる場面があったが、学びが多くあり、得られるものが多い実習であったと感じた。
- ・ 普段しない宿泊形式の演習で、大変疲れたが、実際の農業の苦悩や仕事内容を知ることができ、実際の現場のつらさや難しさを体験することができた。
- ・ キャベツの収穫なんてなかなかできないので面白い経験ができた。
- ・ 4日間、普段の実習ではできないこと、見れないことを体験できたから。野辺山や他校の活動の様子や特徴、工夫を知ることができたから。
- ・ コースの人と泊りで活動するのはとても楽しかったし、酪農家さんの現実も知ることができて有益さを感じたから。
- ・ いろんな刺激のある経験や話を聞くことができてよかった。
- ・ 野辺山という特殊環境下で多くのことを体験し、学べた。

- ・普段の学校生活では体験できない様々なことができたため。
- ・動物コースだからといって畜産分野だけではなく、野菜の収穫や市場見学など様々な分野について知識を増やし経験ができたから。
- ・農業の基本である土地に合ったものを生産するというをととても強く感じ、学べました。こ高冷地ならではの形態や特産の品々など大変興味深かったです。
- ・なかなか見られない牛の去勢が見られたり、チーズ作りなどができたため。キャベツの出荷を始めてした。
- ・実際の農業関係の施設を見学したり農家の方の話を聞いたり、普段なかなかできない経験をできたから。
- ・4日間すべての日程がとても楽しく、有益だった。
- ・実際に体験できる実習が多く、農業の大変さややりがいを感じることができたので有益だと思った。
- ・講義だけでなく身体を動かしてできたため。
- ・現地の農家さんのお話や、JAさんの見学をすることで、大学だけでは学ぶことができないことを学ぶことができたため。
- ・普段とはまた違った気候条件で生活でき、貴重な体験であったから。キャベツの収穫など高冷地ならではの野菜の収穫ができた。
- ・動物コースの普段の講義では体験できないことを体験することができたので、いい経験になった。
- ・普段体験できないようなキャベツの収穫や畜産牛との触れ合いができてとても新鮮だったし、楽しかった。
- ・たくさん動いて、コースの人たちと協力できる内容だったから。
- ・普段体験できない実習ができたため。
- ・実際の去勢の様子を見ることができたことが良かった。

■各講義・実習の評価

	大変満足	満足	普通	不満	大いに不満	無回答
高冷地野菜の収穫・管理	31	8	0	0	0	0
高冷地の自然観察	13	14	8	1	1	2
畜産関連施設見学	33	6	0	0	0	0
乳製品の加工	28	11	0	0	0	0

【理由、感想等】

- ・チーズがとてもおいしかった。普段はできないキャベツの収穫や去勢の現場の見学をして勉強になった。
- ・野辺山ではその気候を活かした農業を体験でき、JAへの見学を通して一貫した農業の流れを知ることができた。上農高校での見学は同じ牛舎でも異なる工夫があり、非常に面白かった。
- ・友だちと楽しく行えて、とても勉強になった。
- ・新鮮な体験ができた。
- ・上農高校の牛舎の清潔さや牛の人なつっこさ、鹿肉も使った料理などを見て、高校生を尊敬したし、大学ならもっとやれることがあると感じた。
- ・家畜に関する部分がほとんどなかったなと思った。自然観察は天気でしょうがない部分もあるが、山に登りたかった。
- ・特に収穫が面白かった。普段やらないことをでき、野菜がどのような過程で出荷されるのを知ることができて楽しかった。
- ・新しい経験でとても印象に残った。
- ・畜産や野菜の収穫・管理について、実際に現場に立ち会ったり体験したりすることが今までほとんどなかったため、とてもよい経験だった。
- ・高冷地の自然観察は天候不良のためできなかったが、代わりに峠に行けて楽しかった。
- ・去勢を実際に見学できたことや、JAの見学で見たことのない設備を見たことなど初めての経験がほとんど

で、とても面白かった。

- ・どれも他では体験できないものだったが、天候の影響で山に登れなかったり、星が見れなかったことが少し悔やまれる。
- ・4日間でいろんな体験をすることができた。特に野辺山での野菜収穫・管理が印象に残った。他の施設に見学に行けたこともよかった。
- ・牛の去勢が興味深かった。キャベツの収穫もやりがいがあって楽しかった。
- ・野菜の収穫を通して、実際にどのように収穫しているのかを知ることができたから。上農高校の見学では、高校生が様々な取り組みをしていることを知って感銘を受けた。
- ・それぞれの実習や講義で農業従事者など外部の方の話を聞くことができ、通常の大学での実習より充実していた。
- ・普段の実習とは異なる環境、施設での実習は非常に新鮮だった。特にJAの見学、上伊那農業高校の見学で学ぶことが多数あり、勉強になった。
- ・収穫では、実際にキャベツを採る難しさとその現場でどれだけたくさんのキャベツが廃棄されているのかを身をもって知ることができた。上伊那農業高校の見学では、畜産の施設や経営の可能性を考えることができた。
- ・牛の精巢が食べれて嬉しかったです。天気の影響であまり星が見られなかったこと以外は満足でした。
- ・植物実習もとっていたが、キャベツの収穫はしたことがなかったため、貴重な毛行け員だった。次に機会があれば晴れている時に星空観察や山登りをしたい。
- ・雨の所為で自然観察ができなかったのが唯一の不満点です。
- ・上農高校の活動や野菜の収穫などよい経験ができた。
- ・普段の実習よりも様々な経験をすることができてとても楽しかった。動物以外の植物を扱うことが多かったが、長野ならではの経験であったと思う。
- ・野辺山という特徴的な環境下での体験だった。
- ・個人的に上伊那農業高校の見学を通して高度な農業生産に触れることができたのが大きな経験になった。年下たちが自分よりも高い知識を持って活動しているのを見て感動した。
- ・家畜に関して、思ったより触れる時間が短かったなどは正直に思います。その点を除けば楽しく、また貴重な敬虔だったと思います。
- ・畜産関連施設見学では、牛に乗るという貴重な体験や、鹿の解体を見ること、鹿を実際に食べることができ、全て初めての経験だった。
- ・野菜の収穫など、実際に経験して学ぶことができた。
- ・野辺山の講義・実習、伊那での講義・実習はとても有益であった。
- ・体験したことのないことをたくさんできてとても有意義な4日間でした。特に牛の去勢を間近で見れたことがよかったです。
- ・高冷地野菜の収穫や畜産施設の見学は普段知れないものを体験できたためよかった。行動調査もやりたかった。
- ・野辺山の高齢地域の環境を生かした農業について学ぶとともに、伊那の高校見学におけるその比較について考えることができた。
- ・みんなと協力する場面も多く、仲が深まる感じがしたため。見学や観察では天気の影響もあったが、あまり時間をかけてできなかったのが惜しい。
- ・高冷地という山間部に位置する長野県の1つの強みを活かした農業を体験することができた。
- ・牛に乗るという経験が初めて面白かった。意外とゴツゴツしていた。
- ・今井先生や椎葉先生たちが私たちにとても優しくしてくださったから。
- ・伊那にいないだけでは体験できないものがたくさんあったため。
- ・どれも非常に興味を惹かれるもので、面白かった。

■演習参加後、興味関心が増したこと（複数回答）

食料	農業	環境	高冷地	野菜	家畜	その他	ない
7	12	4	8	12	19	3	0

※その他：農政策、飼料、害獣について

【理由、感想等（）内は興味・関心が増したこと】

- ・実際に現場で働いている方々の話を聞き、たくさんを試行錯誤があるのだと知った。とても面白かった。
（農業、野菜、家畜）
- ・現在の農業において、就農人口の減少が想像以上に深刻であることが分かった。一方で経営難に苦しむ農家も数多くいることが分かった。（農業、家畜）
- ・畜産施設の見学や農家さんのお話を聞いてよかった。（食料、農業、家畜）
- ・寒暖差がある地域で行われている農業はまた少し違って面白かった。（高冷地）
- ・キャベツ収穫や上農高校での体験で疑問が生じ、興味がわいた。（食料、農業、家畜）
- ・温暖化で高冷地野菜に悪影響が出ていると考えて居たが、実際に行ったら収量やサイズの増大、育てられる種の増加などいいことが多くて驚いた。（野菜）
- ・鹿の獣害をはじめ、野生動物への興味がより強くなった。（環境）
- ・キャベツに限らず他の野菜がどのようにして出荷されているのかが気になった。また野菜が美味しかったのが、その理由が気になった。（野菜）
- ・食料生産など多く課題を抱えていることが分かった。（食料）
- ・今までは知識として農業の衰退や畜産について何となく知っている程度であったが、演習での体験やグループワークでのディスカッションを通して理解が深まった。（農業、家畜）
- ・キャベツの収穫時、廃棄になるキャベツの多さに驚いた。牛の去勢を見学する貴重な経験ができた。（高冷地、野菜、家畜）
- ・野辺山でキャベツの収穫をして、多くのキャベツを廃棄しないといけない状況になったことがすごく印象に残っている。これについて、どうすれば廃棄を減らせるか興味がある。（農業、野菜）
- ・どれも楽しかったが、グループワークでのディスカッションは、様々な視点を知るきっかけとなった。（その他：農政策）
- ・4日間で牛と触れ合うことが多かったので、以前から興味があった家畜に興味関心が増大した。（家畜）
- ・上農の牛舎の環境が素敵で、理想的な管理法だと思った。（家畜）
- ・高冷地でのキャベツの収穫は、伊那よりも涼しい気候だったためいつもの実習より身体的負担が少なかった。上農高校の見学では、牛舎が信大と違い過ぎて驚いた。（高冷地、野菜、家畜）
- ・上伊那農業高校へ見学に行き、生徒が欠かさず手をかけて育てられた牛は大人しく、人の手によって世話を丁寧に行えば家畜の性格などが変わることが興味深かった。（家畜）
- ・2日目のキャベツの収穫で廃棄が多くあることに驚き、食品残渣を減らす取り組みなどに興味を持った。
（食料）
- ・畜産の施設は汚いから嫌というイメージが大きかったが、上伊那農業高校の施設はとてもきれいで、環境がきれいなことは畜産分野へのマイナスイメージを払拭するのではないかと思った。（家畜）
- ・上農高校の見学で野生動物の解体や除肉に興味を抱いた。（野菜、家畜）
- ・思っていた以上に販売できない作物が多かった。これらが無駄にしない取り組みをしりたい。（農業、野菜）
- ・牛飼いについて知れたのでより詳しく聞きたいと思ったのと、鹿が与える環境への大きさをより知れたから。（環境、家畜）
- ・農業について色々な話を聞くことができたから。（農業、環境）
- ・以前から気になっていたが、野辺山で実践されていた飼料の自給の取り組みにとっても興味がわいた。（その

他：飼料)

- ・上農高校でのジビエの取り組みがとても興味分かった。自分も実際にしてみたい。
- ・キャベツの収穫で多くの野菜がその場で廃棄されている事実を知ったことで、野菜の貴重さと生産の難しさを実感できたから。(野菜)
- ・最終日のマイファームさんのお話と実際の農家さんのリアルなお話を聞いたことが自分の意識として大きく変わった要因だと思います。(食料, 農業, 高冷地)
- ・牛の去勢を初めて見た。思っていたよりも単純な構造の道具を使っていて驚いた。伊那キャンパスでは他の方法を行っていると言き、興味がわいた。(家畜)
- ・グループワークなどを通じて、農業の技術だけでなく経営など様々なことについて考えるきっかけとなった。(農業)
- ・高冷地での野菜の収穫、家畜の観察を通して知識が深まったから。(高冷地, 野菜, 家畜)
- ・酪農家さんの話がとてもリアルで面白かった。動物に触れ合えて楽しそうだとしか思っていなかったが、経営方法を工夫しないとつぶれてしまうとてもシビアな仕事なのだと知った。(食料, 家畜)
- ・その土地でしかできない方法で工夫して行っていて魅力的だったから。(高冷地)
- ・動物コースに所属するまで、動物にしか興味がなかったが、今回の実習を通して野菜などの食糧生産に関心を持つことができた。(農業, 野菜, 家畜)
- ・気候などが大きく違ったこともあるが、それ以外にも水田がなかったり、普段とは異なる風景、植生が存在しており、関心が高まった。(環境, 高冷地)
- ・一見弱点にも思える高冷地という特色をうまく生かした家畜生産や、農業を学ぶことができた。(高冷地)
- ・農家さんがとても鹿を嫌がっていたこと、上農生のディアディアがとても美味しかったから。(その他：獣害について)
- ・食料生産や家畜の扱いについて特に興味を持った。(食料, 農業)
- ・牛について特に関心が増した。(家畜)
- ・牛の去勢とキャベツの廃棄量のインパクトが大きかった。(野菜, 家畜)

③高冷地域生物生産生態学演習

実習日：令和7年9月1日（月）～9月4日（木）

受講者数：42名（回答者数：40名）

■高冷地域生物生産生態学演習について

楽しさ	大変満足	満足	普通	不満	大いに不満
	32	7	0	0	0
有益さ	大変有益	まあまあ	普通	あまり	全く
	37	2	0	0	0

【理由、感想等】

- ・他のコースとは異なり、普段は農業に直接関わることがないため、非常に有意義な活動だった。また、学友らと生活を共にしたことでより縁ができ、以前からの友人とも仲が深まったように感じられる。今回の体験を通して、バイオの前から日本の農業に前が必要とされるのかを考えさせられる良い機会だった。
- ・農業について話を聞くだけではなく、実際に体を動かして作業をすることができ、農業の楽しさ、大変さを身をもって経験することができた。
- ・普段、農場で実習を行わないコースのため、手に触れ学ぶことすべてが新鮮であった。高冷地域植物・動物・生物生産生態学演習での演習が可能なのは全国的にも珍しいことなので、とてもよい経験になった。
- ・キャベツの収穫、牛舎での演習など、普段できない体験で、一次産業の大変さを学ぶことができたため。
- ・普段同じコースで学ぶ仲間たちと、いつもとは違った形の学びを得ることができたため。
- ・十分なイベント・体験で満足できた。
- ・今まで経験したことのない農作業の大変さ、興味深さを学ぶことができた。
- ・今までやったことのない野菜の収穫をしたり、動物のお世話をすることができて楽しかった。
- ・普段やる機会が少ない農作業を体験して、新たな発見がたくさんあったから。大変さだけでなく、楽しさも実感することができた。
- ・普段体験することのない作物の収穫や牛の飼養管理をおこなうことができ、とても楽しかった。そのような活動を通して様々なことを得ることができた。
- ・野辺山の気温が生活しやすかった。大人数で協力して何かに取り組む機会が大学に入ってから初めてだったのが楽しく感じた。
- ・泊りが1日目なだけな点、チームと仲良くなる時間が全然なかった。初日に登山と自炊で皆が疲れ果ててしまって楽しみ切れなかった点が少し残念だった。学びは多かったです。
- ・自由度が高く、とても楽しかったです。様々な分野について学べたところも面白かったです。
- ・生命機能科学コースでは屋内での講義がほとんどで、このような体験は貴重なものだったから。
- ・夕食が自由だったり、休憩時間をしっかりとってくれたので無理せず楽しめた。
- ・野辺山ステーションで野菜の収穫を行ったり、飯森山で軽登山を行ったりしたのが楽しかった。
- ・高冷地における食糧生産の方法やその特色を多角的に学ぶことができた。
- ・コースの学習ではなかなかすることのない経験をすることができてよかった。高冷地の奇行を実際に体験できて、伊那や松本との違いを感じることもできた。
- ・専攻ではない分野の実習や学習は新鮮だった。今回の体験は自分の選考に囚われず、幅広い視野を得るのに必要な期間だったと感じる。コースの学習内容は少なからず繋がっていると感じた。
- ・4日間の演習はとてもハードで疲れたが、野辺山では農業の現場を体験を通して知ることに加え、同じ演習を行った仲間と協力することが互いに仲が深まったと感じたためである。
- ・普段扱うことのない農作業などを集中的に学ぶことができた。視野の広がる良い経験になったと思う。
- ・実地で農業生産の現場に触れられた。

- ・普段はラボの仲での実験が多く、実際に農業に関わっている方々のお話を聞いたこと、農作業を体験できたことが貴重だった。
- ・森林コースの実習では体験できないことが体験できてとても有益だった。
- ・涼しかったこと。農場において羽虫が多いか、ゆえにトンボが多いことなどを実感できたため。
- ・実際に経験できたことがとても有益だった。
- ・高冷地域の農業の特性や、JAに出荷する際の決まりごとなど、実際に知ることができてとても興味深かった。
- ・日常では体験できないようなことを経験し、身体全体を使って演習に取り組めたため。
- ・実際に作業をしたり現場を見ることができて、実感を伴って演習を行うことができた。
- ・普段、また今後とも、自分が所属するコースではあまり経験することのできない体験が非常に貴重だと感じた。
- ・野辺山ステーションでの高冷地の農業の実習・講義や普段とは違うコースの活動を体験できる内容が非常に面白かった。
- ・先生が気さくに話しかけてくれた。動物・植物など色々なことについて学べた。
- ・普段体験することのできないことをたくさん行うことができたため。実際に現場で働いている人のお話や作業を体験できたため。
- ・普段、実施しないフィールドワーク形成での演習で、自分の手で実施して話を聞くことでより身になった学習ができたと感じる。
- ・普段経験のない農作業を体験することができてとても楽しかった。
- ・普段経験できないことを体験することができたから。楽しかったけど疲れてここ4日ほど帰宅してから気絶するように寝るしかなかった。
- ・ワイナリーの工場見学や牛の世話の仕方など、普段あまり体験できないことをすることができたから。
- ・多彩な体験機会があり、楽しく、かつ実際に経験できるという有益さ、さらには現場の方のお話を聞ける貴重な機会も設けていただき大変満足でした。

■各講義・実習の評価

	大変満足	満足	普通	不満	大いに不満	無回答
生産農家と出荷場の見学	26	14	0	0	0	0
高冷地作物の収穫・出荷作業	32	7	1	0	0	0
ワイナリー見学	27	12	0	0	0	1
野菜・果樹類の栽培管理	26	11	1	0	0	2
牛の飼養管理	29	9	0	0	0	2

【理由、感想等】

- ・印象に残っているのはやはりトウモロコシやキャベツの収穫である。トウモロコシは背丈が非常に大きく、全力で突っ込んでいかないとまともに作業が行えず、キャベツの方では畑で形を整えて箱にきれいに詰め作業が重労働だった。またどんなにおいしくても少しの傷や虫食いがあるだけで出荷できなくなるなど、納得しがたい部分も残った。
- ・野辺山の農業の特徴や現状を詳しく知ることができたため。普段実習をしていない私にとって、作業時間や内容は適当だと思った。
- ・どの実習・講義もただ見るだけでなく、実際に収穫体験を行ったり、農家の方との質疑応答があったりと主体的に取り組むことができた。
- ・高冷地の特色やワイナリーでの有機産業など興味を引かれた。
- ・普段体験できないことを体験できてよかった。

- ・普段なら訪問することのない場所に行けて満足した。
- ・ワイナリー見学ではワインやジュースを作ることだけでなく、農業の大変さ、面白さを学ぶことができた。
- ・現場を見たことがなかったため、実際に見たり体験することができてよかった。
- ・実際に作物の出荷作業に参加して、私たちが普段手にしている野菜は多くの人の支えがあることを実感した。また、酪農の重労働の大変さを身にしみて感じた。
- ・ワイナリー見学において、ワインがどのように作られているかのお話をもっと聞きたかった。
- ・特にワイナリーや牛に関することは普段の生活とかけ離れていて新鮮だった。
- ・農家さんのすごさ、仕事の大変さと面白さを知れた。いつもはどうしているのかも知りたいと思った（牛のボロ出しなど）。
- ・農作業がいかに大変なのかを体験できてよかった。
- ・実際の現場で話を聞いたり汗を流したりすることで農業のイメージがより深くつかめたと感じたから。
- ・農家さんの声が聞こえづらかった。農業体験ができてよかった。
- ・ワイナリー見学において、ジュースづくりや果樹生産などの背景を知ることができた。
- ・普段体験する機会のない作業がたくさんできて有意義だった。
- ・ワイナリーの見学と聞いていたので、ぶどうよりもリンゴがメインだったのが少し残念だった。有機農業のあり方を学ぶことができてよかった。
- ・どの日程も自分の知らなかったことや、発展した内容の話や体験ができたため。施設見学などは自分では足を出しにくい場所であったため、貴重な経験となった。
- ・どの演習もとても満足している。その理由としては、本来生命コースでは経験することのできない農業を経験することができたり、軽登山を行うことができたためである。
- ・見学については、実際に「仕事」として生産・販売をしている人たちの工夫や悩みが見え、技術以外の農業の面を見られたと思う。作業については様々な作業を体験させてもらえたことでとても充実した実習になったと思う。
- ・JAの出荷・入荷現場を見れた。
- ・実際に農家の方のお話を聞き、自分でも農作業を体験したことで、農業に対する見方、例えばスーパーに並んでいるキャベツに対する印象が変わったから。
- ・栽培管理や牛の飼養管理を体験することで、農業、畜産業の大変さを実感することができた。
- ・農家・牧場主の大変さを身にしみて感じることもできたため。
- ・初めて経験ばかりで楽しむことができた。
- ・農業や畜産に携わる人のリアルな話などを聞くことができ、学ぶことができた。
- ・文献や動画とは違う、実際に行ったからこそ分かる作業の繊細さを学ぶことができた。
- ・特に牛の飼養管理では、触って手入れすることができて楽しかった。
- ・他コースの実習を経験しているようで、農学部としての自覚を再認識した。
- ・実際に体を動かして作業を行う時間が多かったのが良かった。高冷地作物の収穫と牛の飼養管理が特に面白かった。
- ・普段農家が行っている仕事内容を直接体験でき、悩みなども知ることができた。ただ、ワイナリー見学では、セラーや醸造施設を見学したかった。
- ・施設がきれいで使いやすかった。
- ・初めて野菜の出荷に携わることができてうれしかった。
- ・農家がいかに大変な生活をしているのか分かって考え方がすごく変わって勉強になった。
- ・疲れたけど、貴重な経験ができたから。
- ・体力がなく、外での作業や単純作業が大変だった一方、生き物と触れ合えて楽しかった。
- ・実際の現場の状況を見ることができ、携わることができたから。
- ・全体的にどの講義・実習でも実践的な学びを得ることができました。特にワイナリー見学では技術を教えていただけとても勉強になりました。ワイナリー内をもう少し見たかった点と、発酵についてよりお話を

聞きたかったです。

■演習参加後、興味関心が増したこと（複数回答）

食料	農業	環境	高冷地	野菜	家畜	その他
10	22	13	8	9	15	6

※その他：JA, 加工・政策, 仕事への見方, 果樹, 経営の視点で見た農業, ワイン

【理由, 感想等 () 内は興味・関心が増したこと】

- ・ワイナリーでは農場内での循環に非常にこだわっており, 環境に配慮しているというだけでなく, 純粋にコスト削減や, 農業のあるべき姿を目指しており, 対照的に牛の肥育では配合飼料を積極的に用いており, 行う人によってさまざまな形の農業が行われていて, 農業という分野について改めて考えさせられることが多かった。(農業)
- ・農作業で体を動かす楽しさを感じたため。また, 減農薬や有機農業など作物や土壌, 環境に配慮した農業について学んだりして今後の農業のあり方を考えていきたい。(農業, 環境, 野菜, 家畜)
- ・実際に農家の方に話を聞き, 商業用に作物を作る難しさや, 気候変動の現状など, とてもありがたい学びを得ることができ, 関心も増大した。(食料, 環境, 野菜)
- ・牛を追い出す, ブラッシングで命を扱うことの面白さを知った。押したら引く, 尾を引く逆方向に体を寄せるなど行動の規則性も興味深かった。(家畜)
- ・普段アルバイトを通して農業に関わっているが, 育てるものによって似ているところや異なることがあって面白かった。(農業)
- ・就職の業種の幅が広がったと感じた。(食料, 農業, 環境)
- ・ワイナリー見学によって農業の, 伊那での牛の飼養管理によって家畜の大変さを知ることができた。(農業, 家畜)
- ・ずっと食品のことばかり興味があって勉強しようと思っていたけど, 今回の実習を通して, 食品として加工する前段階にも興味を持ったため。(食料, 農業)
- ・農業と畜産がそれぞれ関連していることを学んだ(例:動物のフンを堆肥として利用)。さらに, 農家さんによってより効率的に作業をするために工夫されていることを学んだ。(農業, 野菜, 家畜)
- ・実際に作業をしてみて, こんなにも農業が大変なんだと実感できた。(農業)
- ・最終日以外の話の中で, 「JA」がたくさん出てきた。自分の知っている取り組み以外も色々やっているのだと思ったから。(その他:JA)
- ・野菜や農業への関心は元から高かったが, 循環型の農業や農産物の加工などに関心が湧いた。(食料, 農業, 環境, 加工, その他:政策)
- ・もともと動物が好きなので, 実際に世話を体験できて楽しかったため。(家畜)
- ・農作業を通じて作物や家畜に触れ, その管理の難しさを知ったことで農業従事者への敬意が湧いた。(農業, 環境, 野菜, 家畜)
- ・大変な農業を続けているのは, 農業が好きだからだと感じたから。(その他:仕事への見方)
- ・ボロ出しやブラッシングを実際に行ったことで, 畜産業の大変さを知ることができた。(環境, 家畜)
- ・これまで触れることのなかった分野に触れてその魅力を感じることができた。(家畜)
- ・ワイナリーや牛の飼育管理で, 農業と畜産がたがいに深く繋がっているのと, それぞれ環境とも深い関係があることが分かり, 興味が増しました。(環境)
- ・近年の温暖化の影響や特色のある野菜の生産について学ぶことができた。松川でのワイナリーの見学では青森の品種を育ててることを聞き, 環境変化と農作物の関りについて考えるきっかけになった。(高冷地, 果樹)
- ・これまで, 山や高冷地には少し抵抗感があったが, 高冷地の演習を通して高冷地もすてきだと感じた。(高

冷地)

- ・各農家（生産者？）ごとにこだわり、工夫があって、それを農産物、加工品の価値として持続できる「稼げる農業」を目指していることを知った。消費者のニーズを踏まえた生産を続けること、その方法に興味を持った。（その他：農業経営の視点で見た農業）
- ・高冷地特有の農業生産物やその生産に関する人々の営みをよく知りたと思った。（高冷地）
- ・ワイナリー見学でお話を聞いた農家さんが「農業の本質はリサイクルだ」とおっしゃっていたことが印象に残った。（環境）
- ・収穫が楽しかった。（農業）
- ・この業界はまだまだ発展できるし、発展させなくてはならないと感じることができたため。（農業、家畜）
- ・動物が苦手だけれど、今回の活動で少しは克服できたから。（食料、農業、野菜、家畜）
- ・農業体験を通じて想像以上に作業が過酷であったため、農業の持続性について考える機会となった。（農業）
- ・多くの農家さんが口をそろえて資源の循環について述べていて、環境問題との関係性を実感した。（農業、環境、家畜）
- ・キャベツの収穫の際に、病気になってしまったものなどを畑に転がしているのを見て、捨てられたりする野菜の現状を身をもって知ることができた。（食料、野菜）
- ・想像以上に、体力的にも作物・栽培管理の面でも大変なことだと驚いた。（農業）
- ・高冷地環境に合わせ、それを活かすように発展した農業と実際に農業・畜産業に関わる人の実情について学べたのが興味深かった。（高冷地、家畜）
- ・農業における JA の規格の厳しさや家畜の飼育における病原菌への対策が印象的だった。（農業、野菜、家畜）
- ・ワインの製造やどのような工夫をしているかよく分かった。（その他：ワイン）
- ・肥育用のえさの改良や、野菜の改良を試してみたいと思えた。（食料、高冷地、野菜）
- ・農業等は、以前から関わる機会もあり、ある程度の知識・実践経験があったが、最終日の牛の管理、高冷地という触れる機会の少ない環境での演習はより関心が強くなった。（高冷地、家畜）
- ・農業について今回体験した作業以外にどんなものがあるのか気になった。（食料、農業、環境）
- ・今まで農業について直接学ぶことが少なかったから。（農業）
- ・ワイナリー見学の際に、有機栽培について事細かに教えていただき、実際に目にしたことで実感として環境循環を理解できたため。（環境）
- ・減農薬などが推奨されているが、実際は簡単に農薬を減らしたり失くしたりすることは難しいということを学んだ。（食料、農業、環境、高冷地）
- ・多くの課題をお聞きすることができ、より一層興味関心が強くなりました。（食料、農業、環境、高冷地、野菜、家畜）

④高冷地域応用フィールド演習

実習日：令和7年5月31日（土）、6月21日（土）、9月17日（水）～9月19日（金）

受講者数：50名（うち4名は5/31、6/21のみ参加）（回答者数：41名）

■高冷地域応用フィールド演習について

楽しさ	大変満足	満足	普通	不満	大いに不満
	31	7	3	0	0
有益さ	大変有益	まあまあ	普通	あまり	全く
	33	7	1	0	0

【理由、感想等】

- ・農家さんの気持ちになれました。
- ・この講義でしかできないことができて有意義だった。
- ・いろいろな品種を食べることができた。
- ・生産から出荷まで知ることができたから。
- ・普段、体験できない物事を行うことができたから。また知り合いと一緒に作業できたから。
- ・野菜、果樹、花卉の管理や収穫、包装まで幅広く実習で体験することができたから。
- ・経験したことない作業もあったため、よかった。
- ・植物メインの実習だったので、普段の動物コースのものとは異なり、新鮮さがあって楽しかった。
- ・みんなで仲良く農作業を学べる！
- ・専門外の演習だったため、初めての経験が多かったから。
- ・普段行かない植物コースでの内容を知ることができた。他コースの人たちとも関わることができて楽しかった。
- ・全体を通して自分の専門ではないことをたくさん学べたし、色々なものを試食することができてよかった。
- ・果樹について生産管理から試食まで幅広く学ぶことができるから。コミュニケーションを取りながら楽しく行えるため。
- ・普段、果樹や野菜について学ぶことがなかったので、新しいことをたくさん知れました。
- ・植え付けから、収穫、梱包など一貫して体験することができたためよかった。
- ・普段の実習では、体験できない袋詰めが体験できた点がよかった。
- ・農作物の生産から出荷されるまでを体験することができたから。
- ・果樹の収穫から出荷までの一連の流れについて学ぶことができた。
- ・生命コース所属なので、普段できないような体験ができてとても楽しかったです。ケールの葉を取る作業が好きでした。
- ・普段の実習ではあまりしないことを体験することができて面白かった。
- ・いつもとは違った演習で、果実の収穫や見学など、とても新鮮であったから。
- ・選果場の見学はしたことがなかったので、見学して保存したり流通のための準備を知ることができて興味深かった。
- ・動物コースの実習では行わないことを経験できたため、有益な時間だと感じた。
- ・たくさん試食できたから。収穫後から販売まで学ぶことができたから。
- ・食べ比べができて、野菜や果実の包装が普段の実習ではあまり経験できなかったのが楽しかった。
- ・選果場の見学など非常に勉強になった。
- ・普段の実習と同様に様々な野菜や果樹に触れることができるから。貴重な体験であるから。
- ・栽培管理や収穫作業に参加し、手を動かすことが楽しかったため。
- ・播種から収穫、販売までの一連の成果物の流れを十分に学ぶことができたからです。こまめに繊細に管理、

手間ひまかけて作られているのを知り、いつもは少し高いと思う果物、野菜の価格がとても安く感じられました。

- ・新たな学びが多くあったから。
- ・主に果樹等の管理、収穫について学ぶことができ、面白く、将来の職業選択に生かせそうだと感じた。
- ・果実や野菜の収穫や管理を学べて面白かった。
- ・それぞれの野菜や果物について、栽培する時に大変なことや、どのような工夫がされているのかについて知ることができたから。
- ・コースの実習では包装をする作業がなかったので、体験できてよかったです。
- ・今までの実習では触れられてこなかった部分を今回の実習で体験することができ、とても有意義な時間だった。
- ・いつもとは全く違う環境で学ぶことができ、自然豊かなキャンパスでの実習がとても面白かった。

■各講義・実習の評価

	大変満足	満足	普通	不満	大いに不満
果菜類の定植と茎葉菜類の播種	25	16	0	0	0
茎葉菜類の定植と生育調査	26	14	1	0	0
果樹、花卉類の栽培管理	26	14	1	0	0
園芸作物の栽培管理と収穫・出荷	27	13	1	0	0
選果場及び野菜農家の見学	31	10	0	0	0
園芸作物に関する講義	29	12	0	0	0

【理由、感想等】

- ・様々な疑問が生まれました。
- ・種まきから収穫までではなく、その先の袋詰めまで完結して体験できてよかった。
- ・暑かったので、早い時間から作業を始めたい。
- ・多くの作物の生産に携われたから。
- ・特に選果場の見学は、実習でもほとんどしたことがなく、有益だったと感じたから。
- ・各日で様々な体験ができ、充実していたから。
- ・楽しかった！
- ・グループであったり、ペアで協力したため、作業も楽しく、学びを得ることができた。
- ・様々な園芸作物について知り、実践しながら身につけることができた。
- ・植物にたくさん触れることができ普段の作業や実習とは別の大変さを知ることができた。
- ・協力してやることも多く、先生方の説明もすごく分かりやすく、楽しく行うことができたから。
- ・シクラメンの栽培管理が特に興味深かったです。
- ・説明が全体的に分かりやすかった。
- ・丁寧な説明があり、非常に分かりやすかった。
- ・収穫の仕方や、手入れの方法など学ぶことができたから。
- ・特に JA での選果場見学が印象的であった。
- ・9月の実習は作業も慣れてきて、気温も高すぎずで、楽しく実習が行えました。
- ・定植から出荷まで、一連の流れを知ることができた。
- ・園芸作物の収穫や、実際の信大マルシェでの包装など、新しい経験が多く楽しかった。
- ・普段の実習内容と同じものも多かったが、野菜のパッキングは経験したことがなく、経験したことにより生育→出荷の流れを知ることができたため。
- ・様々な体験ができたから。

- ・タイヤの実験をお手伝いしたり、収穫したりと、とても楽しかった。
- ・普段の実習では行わないようなこともできて参考になった。
- ・作物を植えるところから、管理、収穫、出荷という消費者に届くまでの流れを作物は違えど実感できた。
- ・様々な種類の作物の栽培管理方法を学んだため。
- ・ある工程だけ重点的に、というのではなく、全ての工程に十分携わることができとても充実した実習でした。
- ・面白かったから。
- ・実習や単発バイトで生産物に触れることはあったが、選果場の見学など、貴重な体験ができてよかった。
- ・各講義それぞれが充実した内容でよかったと思う。
- ・実験形式の農場での種付けを学べたことや、信大マルシェ出品用の農作物に触れられたことがより農業に関する知識が増えたと思ったため。
- ・パッキングは今までの実習ではやったことがなかったこともあり、とても面白かった。また杉山さんの実験に関わられたのもよい体験だった。
- ・収穫に関しての講義では自身が触れることがないかもしれない品種を知る機会になり、とても新鮮だった。

■演習参加後、興味関心が増したこと（複数回答）

高冷地	農業	品種	流通	野菜	家畜	その他	ない
5	18	12	21	12	2	2	0

※その他：果樹

【理由、感想等（）内は興味・関心が増したこと】

- ・目的、価格、栽培法に大きな違いがあって面白かった。（農業、品種）
- ・バスで工場に行き、流通まで興味深くなった。（高冷地、農業、品種、流通、野菜）
- ・選果場の見学が良かった。（品種、流通）
- ・普段触れることのない作物を知ることが出来たから。JAの出荷を知ることができた。（流通、野菜）
- ・パッキングをする時に、ナシやリンゴに様々な種類があるのを体感したから。（品種）
- ・JA 見学や実習時の食べ比べや見た目や、管理特徴の違いなどを通して特に品種への関心が高まった。（高冷地、農業、品種、流通、野菜）
- ・果実の流通について、具体的な現場を見れたため。（流通）
- ・（流通）
- ・果樹の栽培が面白いと感じた。（農業）
- ・おいしいから。（野菜）
- ・果樹と触れる機会がなかったため、栽培方法について興味がわいた。（品種）
- ・今まで気にしていなかったことや、様々な流通の仕方があるのだと実感できたため。（農業、流通）
- ・出荷の時期が思っていたのと違ったり、普段見ることのない流通の現場を見たりして、興味がわいた。（高冷地、品種、流通）
- ・最終日のリンゴの作業で自分も将来庭などで育ててみたいと思った。（農業）
- ・野菜は奥深いと感じました。（野菜）
- ・特にケールなど、初めて触れるものには興味がわいた。（農業、品種）
- ・出荷場の見学を通して流通にも興味がわいた。（農業、流通）
- ・りんごやナシなど、味はほとんど同じでも人の目や光センサーで選果されていく過程に興味を持った。（流通）
- ・農家になることもありかと思った。（高冷地、農業）
- ・品種によって見た目や味が大きく変わることを実感できて面白かったです。（農業、品種）

- ・ JA 上伊那を見学して新たな発見が多くあった。(流通)
- ・ 動物コースでは収穫はあまりなかったのに、様々な野菜に携われて興味が増大したと感じた。(高冷地, 農業, 野菜)
- ・ 生産した野菜や果物を出荷し、流通させる過程が気になったため。(流通)
- ・ (家畜)
- ・ 初めて収穫から消費者までの流れの中間を経験できたため。(流通)
- ・ 今までには収穫よりも播種・管理がメインだったので品種の違いはあまり分からなかったけど、収穫してみても包装まですることで品種の間で結構違うのだと思った。(農業, 品種, 流通)
- ・ JA 上伊那果樹選果場の見学が楽しかったです。(流通, 野菜)
- ・ 消費者が高い金を払ってでも買いたいと思うものを作るのが重要だと感じた。(品種)
- ・ 野菜の管理、収穫は身体も動かせるのでやっぱり好きであるし、JA 上伊那で流通の仕組みも面白かった。(農業, 流通, 野菜)
- ・ (家畜)
- ・ 選果場の見学で、上伊那地域の果樹生産が向上していることを知ったため。(その他：果樹類)
- ・ 野菜・果物どちらも初めて学ぶことが多く、学習・講義というものを超えて知識を多く持ちたいと思えました。(農業, 品種, 野菜)
- ・ (流通)
- ・ (流通)
- ・ 元々、農業従事者が将来の目標であったが、生産の一連の流れを学んだことで、より明確に感じる事ができた。(農業)
- ・ 選果場の様子を初めて見て、知らなかったことをたくさん知れてよかった。(流通, 野菜)
- ・ (農業, 野菜)
- ・ 選果場を見学して、流通に興味を持ちました。(農業, 流通, 野菜)
- ・ 自分自身がいつか就農を考えているため、農業に携われる機会を学べてよかったです。(農業)
- ・ 選果場を見学し、流通に関する技術が実際にどう使用されているのかを見ることができ、より流通について興味を持った。(流通)
- ・ 岩手大学で果樹に関しての講義があまりなく、興味はあったものの実際にどのような研究をしているのかを知りより興味を持った。(その他：果樹)

⑤高冷地域先端農業特別演習

実習日：令和7年8月20日（水）～8月22日（金）

受講者数：13名（回答者数：11名）

■高冷地域先端農業特別演習について

楽しさ	大変満足	満足	普通	不満	大いに不満
	8	2	1	0	0
有益さ	大変有益	まあまあ	普通	あまり	全く
	9	1	1	0	0

■各講義・実習の評価

	大変満足	満足	普通	不満	大いに不満
空撮画像の活用	9	1	1	0	0
画像処理	9	1	1	0	0
QGISを利用した解析	8	2	1	0	0

【理由、感想等】

- ・野辺山という土地で有意義な生活ができました。環境が整っていて、涼しくて、日差しが強くてとても夏を感じた。密度の高い演習内容でした。
- ・QGISは使いにくいイメージがあったが、今回はすんなりでき、よりQGISについて理解できた。丁寧に教えてもらえてとてもよかった。
- ・初めて使用する機器やソフトに初めは戸惑ったが、先生方のサポートもあり次第に使用方法を理解し自分で学習を進めることができた。普段研究室で行っていることとはまったく異なる分野の新たな知識を得ることができ、新鮮な体験で非常に楽しかった。
- ・これまでの実習と一味違った実習で面白かった。また、自由度も高く、はじめて会った人たちとの交流もあって楽しかった。これまで「画像処理」は言葉では話せても実際にはできないことだったため、そのギャップを埋められてよかった。

■演習参加後、興味関心が増したこと（複数回答）

高冷地の生産環境	農業全般	ドローン	先端技術	画像解析・GIS
4	4	5	6	9

【理由、感想等（）内は興味・関心が増したこと】

- ・使えるものが増えた実感があるので興味関心が増しました。（先端技術、画像解析・GIS）
- ・実際に演習で体験することで、解像度が上がった。（高冷地の生産環境、農業全般、ドローン、先端技術、画像解析・GIS）
- ・身近なものとして考えられるようになったから。（高冷地の生産環境、農業全般、ドローン、先端技術、画像解析・GIS）
- ・空撮画像を利用することで、想像していたよりも精密な解析ができることを知って驚いた。特に、真上からの撮影であるにもかかわらず、樹木の高さなど三次元的な情報も知ることができる点には興味が湧いた。（先端技術、画像解析・GIS）
- ・今後の農業に関わるであろう先端技術を学んだことで、他にどういったことにも活かせるのか、どのような技術が今後必要となってくるかを考えるきっかけとなったため。（農業全般、先端技術、画像解析・GIS）

3. 参 考 資 料

2. 公開実習案内

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター（AFC）

中部高冷地域における農業・環境教育共同利用拠点

－高冷地域の園芸作物、畜産と環境を組み合わせたフィールド教育－

野辺山農場は、文科省からH25年8月に教育関係共同利用拠点に認定されました。その後、平成30年度に5年間の再認定を受け、令和5年度からは申請施設に構内農場を加え、「中部高冷地域における農業・環境教育共同利用拠点－高冷地域の園芸作物、畜産と環境を組み合わせたフィールド教育－」として、さらに5年間の再認定（R5～R10年度）を受けました。

野辺山農場・構内農場は、様々なプログラムを通して、食育、6次産業化に関する教育の場を提供しています。

①高冷地域応用フィールド演習

準高冷地である構内農場において、葉菜類の育苗管理、果樹類も含めた園芸作物の栽培管理を全3回の演習で行います。

②高冷地域植物・動物・生物生産生態学演習

高冷地である野辺山農場及び準高冷地である構内農場を活用して、高冷地作物の収穫・出荷や野菜・果樹類の収穫、家畜の飼養管理などを体験し、食料の生産から出荷・販売までの一連の過程を学びます。南牧村もしくは川上村の農家や出荷場、八ヶ岳牧場の見学などを行う他、構内農場周辺の野生生物の観察および調査を行い、構内農場の位置する伊那谷の風土の成り立ちと、農林業と関わりのある身近な自然環境について学びます。各演習はほぼ同様の内容を取り扱いますが、演習により重点的に取り組む項目が若干異なります。

③高冷地域先端農業特別演習

野辺山農場において、牧草や野菜を対象に、ドローンを用いた空撮とセンシングを行い、生育診断、雑草検出等の技術を習得します。Pythonによる機械学習の基本を学び、オブジェクトの自動検出に関する基本を学びます。（大学院生対象）

④高冷地域農家実践演習

野辺山農場及び構内農場の施設に宿泊しながら、野菜、酪農等の専業農家での作業を実際に体験し、実践的な野菜生産技術、酪農技術の習得を目指す演習です。技術の習得だけでなく、専業農家における生産および経営システムを学び、高度専門技術者の積極的な養成を推進することを目的としています。

募集期間：9月 初旬3～7日間、募集人員約10名（葉野菜農家：1名程、ホウレンソウ農家：8名程 演習受入対応可）

⑤オープンフィールド演習

高冷地域の施設を利用できない他大学農学系学生を主対象に、卒業論文、修士論文、博士論文研究等に関わる試験圃場や研究課題などの提供と管理を行います。また、野辺山農場及び構内農場の隣接地域における野外調査や研究について、宿泊地の提供などフィールドレベルで指導、援助します。

【野辺山ステーション】

野辺山ステーションは、農学部の東約80km、八ヶ岳東山麓の野辺山高原（標高1,351m）に位置し、農場（19ha）と演習林（9ha）から構成されています。また、戦後の農地開拓を免れた貴重な里山の原生疎林を有しています。周辺一帯は高原野菜と酪農生産が活発であり、この条件を生かした環境保全型の高冷地農業の展開に関する教育・研究の推進を目的としています。



【構内ステーション】

構内ステーションは農学部キャンパス内にある農場（21ha）と演習林（15ha）、そして農学部からすぐの距離にある菅沼水田（3ha）から構成されています。また、大学としては卓越した木材加工機械を配備する製材所を備えています。構内ステーションは、自然を身近に体験できるフィールドとして、樹木・生態・施業・風致など多目的な教育研究に利用されています。



※演習の詳細、詳しい施設案内についてはAFCのHPをご覧ください。
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/institutes/afc/>



令和 7 年度教育関係共同利用拠点事業（農場）報告書

令和 8 年 4 月

編 集 国立大学法人信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター
発行者 国立大学法人信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター
〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村 8304

TEL 0265-77-1300

FAX 0265-72-5259

URL <https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/>

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/institutes/afc/>

MAIL afc_infor@shinshu-u.ac.jp
